

農学部年報

令和3年度

高崎健康福祉大学農学部

ご挨拶

農学部の教育研究活動を記録し、多方面で利用していくために、農学部が開設されてから年報を発行しています。昨年度は、編集作業が遅れ、年末近くの発行になってしまいましたが、今年度は、編集作業も順調で、夏休み前に発行することができました。

令和3年度の特筆すべきこととして、他学部所属で兼担であった先生方が農学部専任になり、3年生が各コース、各研究室に配属され、各コースのカリキュラムに基づいた専門の教育と各研究室での卒業研究が始まりました。また、3年生が就業体験を通して自らの適性や将来設計について考えるための農学インターンシップを、連携協定を締結している群馬県やJAグループ群馬、群馬県食品工業協会をはじめ、多くの企業のご協力を得て実施しました。また、就職に関連した説明会を、キャリアサポートセンターと連携して実施しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症のために、多くの学内行事が中止になりましたが、今年度もその影響が残り、フレッシュマンキャンプの中止や複数の学科が共通して開講する1年生の教養関連の科目などの授業がオンラインで実施されました。しかし、2年生や3年生の授業については、教室の収容人数を考慮しながら、ほぼ全ての授業を対面方式で実施しました。

今年度の入学試験は、新型コロナウイルス感染症や大学入学共通テストの導入などに伴う入試環境の急激な変化による影響を受け、新入学生が70名に留まりました。このため、先生方にもご協力いただき、入試広報センターと連携して、高等学校向けのガイダンスや模擬授業などを積極的に行いました。また、入学生アンケートで、多くの受験生の意思決定に影響を与えるホームページについて、農学部の各コースや各研究室の紹介のためのサイトを開設し、先生方が、日々の活動を直接掲載できるようにしました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、推薦入試などに影響するオープンキャンパスでの高校生との交流が限定され、新設学部である農学部の特長を十分に知っていただけなかったことは、非常に残念です。

一方、入学生アンケートによると、大学院への進学希望が30%程度あり、農学系の大学を選ぶ際に、大学院があるかどうかは受験生にとって重要です。このため、学部の完成年度前ですが、大学院農学研究科生物生産学専攻博士前期課程（定員4名）、後期課程（定員2名）の設置を文部科学省に申請し、令和4年4月からの設置が認可されました。

地域との連携に関しては、令和3年4月に、群馬県食品工業協会と「群馬県の食品工業等の振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代人材育成」についての連携協定を、また、令和4年3月に、伊勢崎興陽高校と高大連携事業に関する協定書を締結しました。さらに、令和3年7月に、大学間の教育・研究・社会貢献活動の連携を目的として、千葉大学大学院園芸学研究院・園芸学研究科・園芸学部及び環境健康フィールド科学センターとの包括協定を締結しました。

以上のように、群馬県内唯一の農学部として、地域や関連分野の大学との連携の輪は着実に広がっています。健大の「自利利他」の精神に基づき、地域と連携して、健大の特徴である健康と食、そして福祉に関係した総合科学としての新しい農学の確立と、スマート農業や6次産業化などの情報化社会に適応でき、地域活性化や国際的に活躍できる人材の育成に貢献できればと考えていますので、農学部の教育研究活動へのご理解、ご支援をよろしく願いいたします。

農学部長 大政謙次

目次

| | | |
|-------|-------------------------------|-----|
| 1. | 学部概要 | 1 |
| 2. | 学生状況 | 4 |
| 3. | 各種委員会報告 | 5 |
| 3.1. | FD・自己点検委員会 | 5 |
| 3.2. | 教務委員会 | 6 |
| 3.3. | 学生委員会 | 8 |
| 3.4. | 入試委員会 | 9 |
| 3.5. | 広報委員会 | 10 |
| 3.6. | 図書館運営委員会 | 12 |
| 3.7. | 動物実験委員会 | 13 |
| 3.8. | 遺伝子組換え実験安全委員会 | 14 |
| 3.9. | キャリアサポート委員会 | 15 |
| 3.10. | 保健・衛生委員会 | 16 |
| 3.11. | 地域貢献委員会（高大連携部会、公開授業ワーキンググループ） | 18 |
| 3.12. | 障がい学生支援委員会 | 19 |
| 3.13. | 国際交流委員会 | 20 |
| 3.14. | ボランティア・市民活動支援センター（VSC）運営委員会 | 21 |
| 3.15. | 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会 | 22 |
| 3.16. | 農学インターンシップ実習運営委員会 | 24 |
| 4. | 農学部セミナー | 27 |
| 5. | 個人活動報告 | 34 |
| 5.1. | 生命科学コース | 34 |
| 5.2. | 作物園芸システムコース | 42 |
| 5.3. | フードサイエンスコース | 51 |
| 5.4. | アグリビジネスコース | 59 |
| 6. | 受賞者リスト | 62 |
| 7. | 外部との連携協定 | 63 |
| 7.1. | 群馬県食品工業協会との相互連携協力の推進に係る協定 | 63 |
| 7.2. | 千葉大学との教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定 | 64 |
| 7.3. | 伊勢崎興陽高等学校との高大連携事業に関する協定 | 65 |
| 8. | 健大通信 | 66 |
| 9. | 大学評議員会報告 | 68 |
| 10. | 生物生産学科ホームページ News & Topics | 88 |
| 11. | 来訪者リスト | 101 |

1. 学部概要

概要

農学部生物生産学科は、「生命科学コース」、「作物園芸システムコース」、「フードサイエンスコース」、「アグリビジネスコース」の4つのコースから構成されています。生命の基礎を学び、食料・食品の生産、開発、流通・販売、ブランディング、マーケティングに至る一連のサイクルを学ぶためのカリキュラムが用意されています。

4年間の教育や研究活動を通じて、「情報化社会をリードし、地域振興に貢献し、国際的に活躍できる人材」を育成します。具体的には、「食」と「農」を体系的に学び、遺伝子工学、ゲノムサイエンス、スマート農業、食品の安心・安全、そして6次産業化などが、人材育成に関わるキーワードです。

「食」と「農」を体系的・専門的に学ぶ4つのコース

生命科学コース

農業・食品分野から生物、医療、環境、製薬などの生命科学・バイオテクノロジー分野まで幅広い科目を設置。遺伝子工学や植物/動物生理学を中心として、分析や統計に関する知識と実験技術なども身につけます。

作物園芸システムコース

作物学、園芸学を基礎として、ICTやゲノム解析、画像情報、高機能グリーンハウス、ドローン、地理空間情報等の先端技術を活用したスマート農業について学びます。また、地球環境、循環型社会構築等の問題にも取り組みます。

フードサイエンスコース

食品化学と生命科学を基礎として、食品に関する発酵・加工・分析・安全を学び、人々に安全安心を届ける食品開発や食品衛生に携わる人材を養成します。

アグリビジネスコース

食料は人間の生存にとってもっとも必要なものであり、地球の環境や資源と密接に関連しています。人々の健康や福祉を担う産業としてアグリビジネスを位置づけて、文理融合の体系的な学びを深める科目を展開しています。



大学院農学研究科の設置

令和3年8月27日に高崎健康福祉大学大学院農学研究科の設置が文部科学省より認可され、令和4年4月に大学院農学研究科が設置されました。大学院農学研究科は生物生産学専攻の1専攻からなり、博士前期課程（入学定員4名）と博士後期課程（入学定員2名）が同時に設置されました。大学院農学研究科では、「人類の健康と福祉に貢献する」という本学建学の理念のもと、食と農の基礎から生産・加工に関わる先端技術、さらには社会実装にいたるまで幅広く学ぶ農学部理念を一層深化・拡充するために設置されました。そして、総合科学としての農学の特徴を踏まえつつ、生命科学、作物園芸システム、フードサイエンス、アグリビジネスなどの教育研究を発展的に融合し、SDGsなどの食と農に関わる諸課題に対応するため、学部レベルを超えた最先端の知識・技能を有する高度専門職業人や研究者を養成します。

大学院農学研究科生物生産学専攻の担当教員と教育研究分野は以下の通りです。

| | | | |
|----------|--|------------------------|------------------------|
| 生命科学 | 基礎生命科学 | 外山吉治 教授・岡本健吾 講師 | |
| | 血液の流動性および食品のテクスチャーを対象としたレオロジー的研究 エピジェネティクスによる転写調節機構に関する研究 | | |
| | 生命工学 | 川崎秀樹 教授 | |
| | 昆虫変態の分子生物学的解析 遺伝子組換えカイコを利用した物質生産に関する研究 | | |
| | 植物生命科学 | 吉積毅 教授・加藤寛 准教授 | |
| | 植物細胞の「工場」化による高機能品生産を達成する遺伝子組換え技術の研究開発 糸状菌を中心とした植物病原菌の挙動解析及び迅速的検出法の開発 | | |
| | 動物生命科学 | 永井俊匡 准教授 | |
| 作物園芸システム | 咀嚼の健康効果のメカニズム 食品やその成分が与える生理学的効果 | | |
| | 作物学 | 廣瀬竜郎 教授・岡部繭子 准教授 | |
| | イネおよびコンニャクにおける光合成産物の輸送と貯蔵に関する生理・遺伝学的学研究 作物の栽培方法および生産物品質に関する基礎的研究 | | |
| | 園芸学 | 荒木陽一 教授・石神靖弘 准教授 | |
| | 園芸作物の新品種ならびに栽培技術の開発に関する研究 園芸作物の環境応答にもとづく施設内の環境改善および生育予測に関する研究 | | |
| | 農業情報システム学 | | 大政謙次 教授・清水庸 教授・大野英一 講師 |
| | 衛星観測やGIS、情報ツール等を活用した地球環境・地域資源・SDGs研究 ICTや画像情報、ドローンなどを活用した植物環境応答とスマート農業研究 | | |
| フードサイエンス | 食品学 | 松岡寛樹 教授・熊倉慧 准教授 | |
| | 漬物加工におけるメタボローム解析および抗高血圧機能に関する研究 野菜やきのこの加工における機能性研究及び機能性発現に関与する酵素の分子生物学的研究 | | |
| | 食品微生物学 | 岡田早苗 教授 | |
| | 伝統発酵食品に棲みつく乳酸菌の働きに関する生理学的・生態学的動態に関する研究 発酵食品に含まれる機能性成分および発酵用微生物の持つ物質変換能力の解明 | | |
| | 食品安全学 | 石岡大成 准教授 | |
| | 食中毒起因菌など病原微生物の制御に関する研究および分子疫学的解析に関する研究 アレルギー疾患に対する食品成分および栄養素の作用に関する研究 | | |
| アグリビジネス | アグリビジネス | 草刈仁 教授・齋藤文信 准教授・谷頭子 講師 | |
| | 環境・資源・通商政策と持続可能な食料供給・食料消費のあり方に関する研究 フードシステムを構成する各主体の経営戦略、組織間関係及びマーケティングに関する研究 | | |
| | 家計と食品産業の連携による食品ロス削減に関する研究 | | |

農学部・生物生産学科オリジナル web サイトの公開

農学部生物生産学科での教育や研究内容を広く伝えることを目的として、令和3年10月にオリジナル web サイトの公開を始めました。全学の web サイトでは5学部・8学科の情報がわかりやすく紹介されています。生物生産学科の web サイトは、全学の web サイトの情報に繋げるかたちで作られており、学科の4つのコース、生命科学、作物園芸システム、フードサイエンス、そしてアグリビジネスコースの詳しい内容、そして大学院農学研究科や附属農場（スマート農場）を紹介し、教育・研究の状況をまとめた当年報も公開しています。また研究室ごとの web ページを作り、研究室のニュースやトピックス、教員の情報を紹介しています。各教員が研究室の web ページを更新できるため、新しい情報を迅速に公開できる仕組みです。web ページは全学のものと同じスタイルを用い、統一感を持たせており、またスマートフォンとパソコンのどちらでも閲覧できます。

学科の web サイトを公開するにあたり、web サーバ名の登録、全学 web サイトとのリンクの手続きを本学情報システム管理課にご担当いただきました。また、本学入試広報センターのご協力により、大学案内「2023 Guidebook 高崎健康福祉大学」に、web サイトの二次元コードを掲載されています。大学案内での情報に加え、新しい情報を保護者や受験生に提供可能となります。今後、この web サイトを活用しながら、農学部・生物生産学科の教育や研究の魅力を伝えていく予定です。



4 コースの web サイトと二次元コード

2. 学生状況

今年度は70名の1年生を迎え、2年生94名、そして3年生96名と合わせて、農学部の学生数は260名となった。

授業について、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響があるなかでの実施となった。1年生の授業はカリキュラム上、複数の学科が共通して開講する教養関連の科目が多いため、対面方式の授業の割合は約6割（後期授業分）に留まったが、2年生および3年生については、ほぼ全ての授業が対面方式にておこなわれた（左図）。大学全体の方針によって、10月までは各教室収容数の上限2/3と設定し、教室を利用したが、学生および教職員のワクチン（2回）接種が進んだことを受け、11月からは各教室収容数の上限100%の利用が認められ、通常の教室利用が可能となった。なお、4月に実施予定であった、新入生が参加するフレッシュマンキャンプは宿泊や飲食を伴うため、やむを得ず中止となった。代わりに、複数の講義室を使用し、新入生の数に対して少数であるが上級生や寮生の先輩も含めた交流イベントを開催した。

就業体験を通じて、食と農に関する実学的な専門知識や技術を修得するため、授業「農学インターンシップ」が開講された。多くの3年生が受講し、インターンシップにおいて学んだことを、受け入れ企業や研究所等の担当の方、教員および下級生に向けて、発表した（右図）。



授業の様子



農学インターンシップの発表会

3. 各種委員会報告

3.1. FD・自己点検委員会

委員：川崎 秀樹、草苺 仁、石岡 大成、石神 靖弘

活動内容

1. FD・SD 活動に関する事項

対面でのFD、SDの実施が難しかったため、オンライン形式にて「ニューノーマル時代のビジネスマナー」と題してSD研修会が実施された。

2. 自己点検・評価に関する事項

全学的な取り組みとして、学士課程教育における「学修成果の可視化」に関する指標の開発が必須となっており、どのような方針で臨むか議論を重ねた。

農学部（生物生産学科）の「2021年度自己点検・評価シート（基準01, 04, 05, 06）」を作成し、教授会の承認を経て全学委員会へ提出した。

全学の「令和3年度点検・評価報告書（第1章 理念・目的）」を作成し、全学委員会へ提出した。

3. 3つのポリシーに関する事項

農学部・生物生産学科の3つのポリシー定期点検会議を6月23日（水）農学部会議室で開催。学外参画者、学生委員を含めた委員で、3Pについて検討を行った。

完成年度後の農学部・生物生産学科3つのポリシーを検討し、1月の学科会議に提出、議論を経た後、FD・自己点検委員会に提出後、2月の農学部教授会で承認された。

4. 教員マニュアルに関する事項

教員マニュアルの更新は、毎年10月と年度末に行うことになっている。前回の更新（第4版）から追加すべきコンテンツがないか検討するとともに、第5版の発出について教員に周知を強化していくことにした。

教員マニュアル改訂に関するドラフト完成後、委員内および農学部内で全体を精査し、教員マニュアルは9月末に第5版として公開された。

3.2. 教務委員会

委員：加藤 寛、岡本 健吾、清水 庸、松岡 寛樹、辻 聡、草苺 仁

活動内容

1. 履修関連

農学部事務職員、授業担当教員およびアドバイザー教員の協力のもと、必修科目やリメディアル科目などの履修状況および授業の出席状況を把握し、学生の履修が順調に進むよう支援した。またリメディアル科目の学習到達度テストのとりまとめを行った。

来年度の時間割を作成した。

特待生や成績が振るわない学生を対象とした、アドバイザー教員や学部長による個人面談の支援を行った。

2023 年度から適用する新カリキュラムの検討を始めた。見直しの方針は、専任教員が担当する 1 年次開講科目を現行から増やすこと、進級要件を 2 年ならびに 3 年進級時に設定すること、キャリア教育科目を設置することの 3 点である。

2. 各種ガイダンスの開催

学修が効果的に進むように学生向けに各種ガイダンスを企画し、開催した。具体的には、在学生ガイダンス（3 年生：3 月 24 日午後、2 年生：3 月 24 日午前）、新入生ガイダンス（4 月 5 日午前）を開催した。履修ガイドの訂正に関わる文書をガイダンスにて配布、もしくはメールの添付ファイルにて学生へ送付し、学生へ周知した。

3. 研究室配属およびコース選択

3 年生を対象に各コースにて研究室配属の説明会を開催し、後期開始時までには研究室への配属を実施した。

2 年生を対象にコース選択を実施した。後期の履修登録期間前にコース選択の内定結果を学生へ公開するため、昨年度よりも説明会や希望調査などの時期を早めた。具体的には、コース選択説明会（4 月 13 日）、コース希望順位の第 1 回予備調査（Web 回答、4 月 20 日〆切り）、第 2 回予備調査（Web 回答、6 月 23 日〆切り）、そして最終調査（Web 回答、9 月 6 日〆切り）を実施し、その後、内定結果を学生に公表した（1 階掲示板、9 月 13 日）。なお、コース選択説明会では 3 年次での研究室配属ルールについても説明した。

1 年生を対象にしてカリキュラムに関するガイダンス（10 月 13 日）を開催し、コース選択のルールやスケジュールを説明した。

4. 履修ガイドの校正およびシラバスの確認

次年度の履修ガイドについて、今年度版の内容を確認し、修正する部分を検討し、分かり

やすい履修ガイドの作成に努めた。

次年度版シラバスの作成を教員に依頼し、提出されたシラバスの内容を農学部事務職員と共に確認した。学生にとって履修科目の選択時において、参考になり、履修中に授業の流れが理解できるようなシラバスの作成をおこなった。

5. 編入学の手続き

2022年度から編入学の学生（3年次）を農学部を受け入れるにあたり、入試委員会の教員とともに、高崎健康福祉大学（農学部）編入学に関する内規を検討し、編入学生単位認定表を作成した。

6. 全学教務委員会からの情報伝達

全学教務委員会での協議事項および報告事項について、学科会議および教授会などにて農学部教員へ伝え、必要に応じて協議した。

7. 3つのポリシーについて

6月23日に学部長、FD・自己点検委員、入試委員、教務委員、学外評価参画者、教育改善委員、担当事務員が参加し、3つのポリシー（AP、CP、DP）点検会議が行われた。教務委員は学科CPについて説明を行い、外部評価参画者との質疑応答を行った。また、学部全体にかかわる意見交換を行った。

FD・自己点検委員とともに、2023年度から適用する新しい3つのポリシーを作成した。

8. 学部内教務委員会の開催

学部内での教務委員会を開催し、上記の各事項について話し合った。開催日等は以下のとおりである。委員会はオンライン会議にて実施したものもある。

| | |
|-----|-------------|
| 第1回 | 2021年4月22日 |
| 第2回 | 2021年5月20日 |
| 第3回 | 2021年6月24日 |
| 第4回 | 2021年7月29日 |
| 第5回 | 2021年10月21日 |
| 第6回 | 2021年11月18日 |
| 第7回 | 2021年12月23日 |
| 第8回 | 2022年1月20日 |
| 第9回 | 2022年2月24日 |

3.3. 学生委員会

委員：石神 靖弘、谷 顕子、辻 聡、藤本 正太

活動内容

1. フレッシュマンキャンプに関する事項

2021年4月7日～8日に草津温泉で実施予定であったフレッシュマンキャンプについて準備を進めた。前年度から新3年生の有志（9名）を募り、予算要求、当日のスケジュール立案等、準備を進めていたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

代替イベントとして10号館にて感染症対策を講じたうえで、4月8日に新入生オリエンテーションを開催した。新入生の自己紹介や上級生による大学生活の紹介、各学内委員の選出、履修登録の相談、上級生主催の新入生交流会を行った。

2. 農学部保護者会に関する事項

2021年11月13日に、対面形式で実施し、その様子をYouTubeにて同時配信した。対面の来場者は42名、オンラインの動画は134回の視聴があった。また、同日に個別相談を行い、19件（うち、オンライン3件）の相談に対応した。

3. 体育祭に関する事項

2021年10月9日に開催された体育祭について、副担当として体育祭実行委員会の統括、及び、当日の運営の補助を行った。

4. 藤龍祭に関する事項

2021年10月23日・24日にオンラインで開催された藤龍祭に、農学部紹介と模擬実験風景の動画を展覧した。藤龍祭の当日は93回の視聴があった。

5. 学生満足度調査に関する事項

2022年1月17日（月）～2月4日（金）に、Google formsを利用したWeb回答形式で学生満足度調査を実施した。

6. 白衣・作業着の販売に関する事項

希望する1年生を対象として、白衣・作業着の試着会、及び販売を実施した。

7. 優秀学生表彰に関する事項

昨年度定めた選考方法をもとに2年生（新3年生）を対象に、表彰学生の選考を実施した。

3.4. 入試委員会

委員：外山 吉治、廣瀬 竜郎、齋藤 文信、小林 泰斗、松永 安由

活動内容

1. 2022 年度入学者選抜に関する事項（全学入試委員会と連携）
 - 入学者選抜問題の作成
 - 3 年次編入学試験の実施
 - 総合型選抜の実施
 - 健大スカラシップ選抜の実施
 - 農学部総合型選抜Ⅱ期の実施
 - 学校推薦型選抜の実施
 - 大学入学共通テストの実施
 - 一般選抜（A 日程・B 日程）の実施
 - 大学入学共通テスト利用（前期・中期・後期）選抜の実施

2. 2022 年度入学者選抜に関する事項（全学入試委員会と連携）
 - アドミッションポリシーの改訂
 - 総合型選抜の定期的な制度見直し
 - 学校推薦型選抜の定期的な制度見直し
 - 大学入学共通テストの定期的な制度見直し
 - 一般選抜の定期的な制度見直し

3. その他
 - オープンキャンパスでの入学者選抜説明
 - 広報活動として高校訪問

3.5. 広報委員会

委員：吉積 毅、岡部 繭子、熊倉 慧、谷 顕子

活動内容

1. ホームページに関する事項

本学農学部ホームページの「News&Topics」への記事の投稿を受けつけ、随時、更新を行った。記事内容はサムネイルにカテゴリーを表示し、お知らせ、学生活動、イベント・入試、地域・研究活動に分けて掲載した。2021年度は53件（2022/03/07時点）の記事を掲載した。また、生物生産学科のTOPページ情報の更新し、農学部独自のHPへのリンクを作成した。

2. 大学案内に関する事項

2.1. 2022年度版大学案内

2022年度版大学案内である「大学案内2023」の農学部紹介ページ作成および農学部教員関連ページに関わる校正作業を行った。今回は記事内容の大幅改定があり、掲載写真の更新や各コースおよび研究室に関する掲載内容の充実、農学部独自HPのQRコードの掲載などを実施した。

2.2. 大学入試雑誌のインタビュー対応

ベネッセマナビジョン、リクルートスタディサプリの在校生紹介ページのインタビューに対応した。

3. 広報イベントに関する事項

3.1. 大学進学イベントへの参加

夢ナビライブ2021 web in summer、および in autumnでの模擬授業（いずれもオンライン型）に対応した。農学部からは計3名の教員が講師として参加した（2021/07/10-11・齋藤、2021/10/2-3・外山・吉積）。

3.2. オープンキャンパスの実施

3.2.1. 夏のオープンキャンパス

2021夏のオープンキャンパスは、Web配信（2021/07/17、2021/08/21-22）と対面開催（2021/07/18）のハイブリットで実施した。対面開催の7月18日（日）は、午前の部49名、午後の部14名、計63名の高校生が農学部に来場され、教職員と在学生（4名）に協力いただき対応した。

3.2.2. 春のオープンキャンパス

2022春のオープンキャンパスは、3月12日（土）に対面開催で実施した。農学部には、高校生26名（+同伴者25名）の計51名が来場され、教職員と在学生（8名）に協力いた

だき対応した。希望に分かれて参加する後半プログラム（パネル展示、個別相談、キャンパスツアー）には、個別相談が6名、農場見学が18名、ラボ見学が19名、延べ43名の高校生に参加いただいた。

3.3. 模擬授業・ガイダンスへの対応

3.3.1. 模擬授業対応

依頼のあった以下の高等学校に対して模擬授業を行った。

前橋市立前橋高等学校（2021/09/24・岡部）、栃木県立足利女子高等学校（2021/09/27・岡田）、群馬県立太田高等学校（2021/10/18・外山）、県立藤岡中央高等学校（2021/10/14・岡部）、長野県立須坂高等学校（2021/10/14・岡本・永井）、県立藤岡中央高等学校（2021/10/15・清水）、県立富岡高等学校（2021/10/21・岡田・齋藤）、県立沼田女子高等学校（2021/10/26・藤本）、群馬県立太田高等学校（2021/10/27・吉積）、常磐大学高等学校（2021/10/27・谷）、栃木県立佐野東高等学校（2021/10/29・吉積）、栃木県立宇都宮中央女子高等学校（2021/11/02・松岡）、栃木県立小山西高等学校（2021/11/08・荒木）、栃木県立真岡女子高等学校（2021/11/14・齋藤）、前橋育英高等学校（2021/11/18・草薨）、県立吾妻中央（2021/11/18・廣瀬）、高崎健康福祉大学附属高崎高等学校（2021/11/18・齋藤）、茨城県立下妻第二高等学校（2021/11/26・吉積）、県立伊勢崎興陽高等学校（2021/12/07・加藤・永井）、栃木県立栃木農業高等学校（2021/12/07・辻）、県立尾瀬高等学校（2021/12/07・橋田）、正知深谷高等学校（2021/12/13・吉積）、高崎経済附属高等学校（2021/12/14・川崎・藤本）、県立伊勢崎興陽高等学校（2022/03/17・石神）、県立大泉高等学校（2022/03/17・吉積）、栃木県立宇都宮白楊高等学校（2022/03/22・岡部）

3.3.2. ガイダンス対応

依頼のあった以下の高等学校に対してガイダンスを行った。

高崎健康福祉大学附属高崎高等学校（2021/04/14・石岡、2021/06/28・辻）、群馬常磐高等学校（2021/06/21・熊倉）、県立安中総合学園高等学校（2021/06/24・熊倉）、栃木県立小山西高等学校（2021/07/20・吉積）、太田市立高等学校（2021/09/15・熊倉）、県立前橋南高等学校（2021/12/07・熊倉）、長野県立須坂創成高等学校（2022/03/22・吉積）

4. その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ポスター出展（2021/11/24）

3.6. 図書館運営委員会

委員：大野 英一

活動内容

1. 令和3年度図書館資料費等の決算について

本年度は農学部図書（書籍）購入費の割り当ては無く、農学部から推薦のあった図書（書籍）購入については、図書館選定用図書予算から支出が行われた。また、視聴覚資料費については、予算通りに執行された。

2. 図書資料の推薦および選定について

今年度購入する視聴覚資料の推薦をお願いし、農学部が購入する視聴覚資料を決定した。

3. 新規希望調査（冊子体、電子ジャーナルおよびデータベース）

新規希望調査の結果、電子ジャーナル/データベースに1件のご推薦を頂いたが、関係者らで協議を行った結果、本年度の契約は見送ることとなった。

4. 高崎健康福祉大学紀要第21号の発行について

高崎健康福祉大学紀要第21号の発行に向けて発行規定の改正に関する協議、発行規定の運用に関する協議、執筆者の資格確認、および投稿原稿4報の校閲を行った。

5. 私の薦める1冊の本の執筆依頼について

図書館運営より図書館報「藤波」第2巻21号の執筆依頼があり、生命科学コースのご推薦により、植物生命科学研究室の加藤寛先生が原稿をご担当された。「藤波」は、3月1日付にて発行された。

3.7. 動物実験委員会

委員：松岡 寛樹、永井 俊匡

活動内容

1. 動物実験計画書の審査、実施状況の確認に関する事項

本学では、科学的観点、動物愛護の観点、安全確保の観点から、関連法令・指針を踏まえた「高崎健康福祉大学動物実験等の実施に関する規程」（以下、規程とする）を定めている。この規程に則り、本学所属研究者から提出される動物実験計画の1年ごとの審査を、本委員会で行っている。

令和3年度は延べ38件の実験計画を審査した。

2. 教育訓練に関する事項

動物実験を本学で実施するために教育訓練を義務付けている。今年度から、生命科学コース3年次の「生命科学特別実験」が開講され、授業として動物実験が実施された。このため、授業内にて当該コース学生26名と新規教員に対して、教育訓練を実施した。

3. 施設等及び飼養保管状況に関する事項

令和元年度に、農学部棟1階の「農学部実験動物施設」が本学に承認された（承認番号：第3号）。そして令和2年度は「実験動物施設利用要綱」の承認を、全学動物実験委員会から受けた。

これに伴い、令和3年度は施設の利用が本格化した。今年度は日平均でマウス70匹・ラット0.2匹を飼養し、マウス233匹・ラット16匹を使用した。

4. 自己点検に関する事項

規程では、動物実験の実施状況に関する自己点検・評価を行い、学長へ報告することを定めている。農学部実験動物施設について、動物実験委員長の指示のもとに自己点検作業を進めた。その結果は、全学の動物実験委員会にて取りまとめられ、本学ホームページ（下記URL）にて公開されている。

5. 情報公開に関する事項

動物実験委員会では、動物実験に関する情報を本学ホームページにて公開している。

<https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/research/animal-experiment>

3.8. 遺伝子組換え実験安全委員会

委員：廣瀬 竜郎（副委員長）、岡本 健吾（安全主任）

活動内容

1. 遺伝子組換え実験計画書の審査

本学における遺伝子組換え実験の遵守すべき事項を定め、申請された実験計画の指針に対する適合性の審査、および指導・助言を行っている。本年度は2件の遺伝子組換え実験申請の審査を行い、承認した。また、6件の変更依頼についての手続きを行った。

2. 遺伝子組換え実験従事者講習会の開催

遺伝子組換え実験に従事する者に教育訓練を行い、実験の安全かつ適正な実施をサポートしている。

- ・本学において遺伝子組換え実験を行う学生及び教職員に対して、遺伝子組換え実験安全教育を行った。
- ・新任の研究者に対して遺伝子組換え実験計画書作成の説明会を行った。
- ・7月10日および11月19日に、全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会が開催した安全研修会へ参加した。

3.9. キャリアサポート委員会

委員：荒木 陽一、吉積 毅、谷 顕子、岡田 早苗

活動内容

キャリアサポート委員会は、学生の卒業後の就職・進路に対してサポートする委員会である。農学部は2019年4月に新入生を迎え、その学生たちは2021年度に3年生となった。3年生の後半からは就職活動（就活）が本格化する。本格化に先立ち、企業探し、自己診断（自分の向いている業種や職種などを判断する材料となる）、エントリーシートの書き方、面接の練習など、大学キャリアサポートセンター（CSC）と連携して学生指導をした。

卒業後数年目の若い社会人、あるいは経験豊富な社会人を招待して、就活に関する経験談や企業上層から見た学生に求めることなどの話を聞く「就活セミナー」を、学部として企画し3年生の就活を支援した。また群馬県内食品企業90数社が加盟する「群馬県食品工業協会」と本学農学部とは、研究や学生の就職などを含めた総括連携協定を結んでいることから、県内食品企業12社による農学部内での企業説明会を実施し、企業担当者と学生の対話の場を作った。

学生たちの目に留まる企業は、大手企業やマスコミなどで露出の多い企業であることが多い。そこで、本委員会では学生に広く様々な企業を見つめてほしいことから、各委員が関わりのある企業リストを学生に配付した。

また公務員志望者に対しては、国家公務員職員試験日程、群馬県職員採用試験日程などの情報を集め、3年生へ伝達した。JAグループの就職に関わるガイダンス開催の情報も伝達した。

さらに就職活動が本番に入る直前の12月から1月にかけて、3年生各人の就活の現況を把握するため、各所属研究室の教員による面談（ヒアリングシート記入）を実施した。シートデータを集積し、学生への指導資料とした。

2年生へは、大学キャリアサポートセンターと協力し、就職情報会社が企画する講座への参加を促した。また現段階での就職に対する意識調査を学部として実施した。

農学部所属教職員に、学生がこれから行う就活での動線を理解してもらうために、就職情報会社担当者に依頼し、教員を対象にした就職講座を企画し実施した。

3.10. 保健・衛生委員会

委員：外山 吉治、石岡 大成

活動内容

農学部保健・衛生委員会として、全学共通部分（感染症部会と禁煙部会）と農学部固有部分とに分けて活動した。

1. 全学共通事項

1.1. 感染症部会

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスに感染した学生および教職員が、学内に入構することで危惧されるクラスター発生を防止するために、毎日の体温および体調を専用サイトから報告することを続けることにした。また、新型コロナウイルス対策フローなどを公開し、万一体調が優れない場合などの際は、フローを参考にして対応することができるようにした。このフローについては、新たな対策事項が生じるたびに更新された。

1.2. 禁煙部会

2018年7月に改正施行された健康増進法に準じ、2019年7月より、本学キャンパス内が禁煙地区となり、2020年4月から屋内も禁煙となった。このことにより、キャンパス内および近隣地区は例外なく禁煙区域となった。この方針を受けて2021年度も、昨年度から引き続き喫煙者ゼロを目指した禁煙チラシを作製すると共に、高崎健康福祉大学の禁煙化ステップアップ提案書を実行した。これらの取り組みにより、農学部キャンパスで内の禁煙は現在も徹底されている。

2. 農学部内固有事項

農学部は学部の特質上、屋外での田畑作業やグリーンハウス内での果菜類の摘果などの作業（農業実習）が実施される。その際に、土壌中に存在する嫌気性細菌による致死性の高い感染症（破傷風）や昆虫による被害（主にハチ刺されによるアナフィラキシーショック）など、命にかかわる危険性に晒されることが危惧される。そこで、実習中における学生の安全性を確保するために、以下のことを実施した。

2.1. 破傷風感染対策として

破傷風はワクチン接種により防ぐことが可能な感染症である。本ワクチンは小児が接種を受ける三種または四種混合ワクチンに含まれ、最後に破傷風ワクチンの接種を受けるのは、通常であれば10歳前後に接種を受けるDTワクチンであると考えられる。破傷風ワクチンの有効年数はおよそ10年と報告されていることから、最後に破傷風ワクチンの接種を受けた時期を把握することは重要である。そこで、破傷風の予防接種実施に先立ち、保護者または母子手帳によるワクチン接種歴の確認をお願いした。これらの記録を基に希望した

学生に対し破傷風ワクチン接種を実施した（2021/11/19）。

2.2. ハチ刺されによるアナフィラキシーショック対策として

ハチ刺されによるアナフィラキシーショックは、過去にハチに刺されたことがある者が再度ハチに刺されることにより発症する危険性の高いショックである。したがって、過去にハチに刺されたか否かを知ることは重要なことであり、その判定には抗体検査が有効である。この抗体検査は、定期健康診断の残血液を利用して実施された。

2.3. 破傷風ワクチン接種とハチ蜂抗体検査についての講義

学生に標記の件についての重要性を知ってもらうために、生物生産学概論 B の講義時に岡田先生がワクチン接種と抗体検査について説明をした（2021/09/28）。

3.11. 地域貢献委員会（高大連携部会、公開授業ワーキンググループ）

委員：小林 泰斗、藤本 正太

活動内容

1. 令和3年度高崎健康福祉大学パートナーシップ・プログラム（附属高校との高大連携）

生物生産学科では領域ごとに幅広い分野があるため、それぞれの特徴的な内容について体験学習ができるように、基礎生命科学、植物生命科学、動物生命科学、作物学、園芸学、農業情報システム学、食品学、食品微生物学、食品安全学、アグリビジネスの各領域が体験学習を企画した。本年度は、園芸学の「イチゴを交配してみよう」と農業情報システム学の「ドローンの操縦を学ぼう！」の2テーマが選択され、5名（3年生女子2名、男子3名）の学生に対して実習を行った。

2. 令和3年度公開授業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

3. 高崎健康福祉大学農学部と群馬県立伊勢崎興陽高等学校との高大連携協定

令和4年3月16日（水）14:00～に、高崎健康福祉大学農学部と群馬県立伊勢崎興陽高等学校との高大連携協定を締結した。

3.12. 障がい学生支援委員会

委員：岡部 繭子、熊倉 慧

活動内容

1. 全学障がい学生支援委員会への参加

全学障がい学生支援委員会（11 回開催）での協議事項および報告事項について、必要に応じて教授会などで農学部教員へ伝達し、協議した。

2. 今後について

農学部において、支援を要する学生がいる場合は、全学障がい学生支援委員会で決められたプロセスに則り、支援の申請から実施に至るまでを行う。これらの一連の手順などは、教授会にて農学部教員へ周知した。また、当委員会を通じて学生支援を行う際は、当委員会の教員と関係する教職員が連携してサポートを行う。

3.13. 国際交流委員会

委員：齋藤 文信、大野 英一

活動内容

1. 運営委員会の出席

コロナ禍の影響で、第1回の国際交流委員会のみ対面で行われ、その他の連絡はメール形式で行われた。

2. 学生のグローバル化に関する事項

2.1 Online 国際交流

コロナ禍の影響で2021年度夏実施予定の各海外研修プログラムは中止となった。その代替として、Zoom等を用いたOnline国際交流が企画、実施された。オーストラリアとのOnline交流(7/3)、ベトナム学生とのOnline交流(9/25)、オランダとのOnline交流(2/19)には生物生産学科の学生も参加した。また、Online国際交流研修(2/28-3/4)がJICA(国際協力機構)、JOCA(青年海外協力協会)、長野県看護大学(学生8名)との協働により実施され、生物生産学科からも1年生1名、2年生1名が参加した。

2.2 グローバルカフェ

外国人ゲストと学生が英語でフリートークや情報交換をするグローバルカフェが実施され、生物生産学科の学生も参加した。

2.3 グローバルポイント制度

国際交流活動を推進することを趣旨として、グローバルポイント制度が開始された。生物生産学科の学生も参加した。

3.14. ボランティア・市民活動支援センター（VSC）運営委員会

委員：橋田 庸一、豊田 集

活動内容

1. VSC 運営に関する事項

運営委員会（計 11 回）に出席した。

2. 学生支援・コーディネートに関する事項

学生の専門性に合わせたボランティア活動の支援を行った。活動内容は以下の通りである。

①梨の袋掛け作業

- ・日 時 : 2021 年 6 月 12 日 9:00～12:00
- ・参加者 : 学生 7 名（うち、4 名が生物生産学科 3 年生）、
引率教職員 2 名（大家、吉澤）
- ・活動場所：悴田梨園（高崎市下里見町）

②梨の収穫作業

- ・日 時 : 2021 年 11 月 3 日 13:00～16:00
- ・参加者 : 学生 4 名（すべて生物生産学科 3 年生）、
引率教員 2 名（橋田、豊田）
- ・活動場所：悴田梨園（高崎市下里見町）

③国分になじんの収穫作業、および農家さんによる講義の受講

（※新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止）

- ・日 時 : 2022 年 1 月 22 日 9:30～14:00
- ・参加者 : 学生 8 名（生物生産学科の 3 年生 3 名、1 年生 5 名）、
引率教員 2 名（荒木、橋田）
- ・活動場所：国府野菜本舗（高崎市引間町）

3.15. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会

委員：大政 謙次、荒木 陽一、川崎 秀樹、廣瀬 竜郎、清水 庸、吉積 毅、石神 靖弘、
岡部 繭子、大野 英一、橋田 庸一

活動内容

1. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場運営委員会規程

農学部に設置された農場（以下、「スマート農場」という）の効率的な管理・運営ならびに利用促進を図ることを目的とする。

2. 高崎健康福祉大学農学部スマート農場の利用促進に係る細則

スマート農場の利用促進に係る方策について定める。

(参考資料)

令和3年度前期 作物園芸実習Ⅰカレンダー

| 回数 | 期日 | 作業内容（予定） | 担当研究室 |
|----|-------|----------------------|---------|
| 1 | 4月14日 | ガイダンス・安全講習・ジャガイモ植え付け | 園芸・作物 |
| 2 | 4月21日 | スマート温室説明・見学 | 園芸 |
| 3 | 4月28日 | ナス定植（マルチ、植え付け） | 作物 |
| 4 | 5月12日 | 統計解析関連① | システム |
| 5 | 5月19日 | サツマイモ&コンニャク植え付け | 作物 |
| 6 | 5月26日 | 統計解析関連② | システム |
| 7 | 6月2日 | 統計解析関連③ | システム |
| 8 | 6月9日 | 統計解析関連④ | システム |
| 9 | 6月16日 | ナス栽培管理・ドローン説明 | 園芸・システム |
| 10 | 6月23日 | ジャガイモ収穫 | 作物 |
| 11 | 6月30日 | 田植え | 作物 |
| - | 7月7日 | （予備日） | |
| 12 | 7月14日 | ナス収穫 | 園芸 |
| - | 7月21日 | （予備日） | |

令和3年度後期 作物園芸実習Ⅱカレンダー

| 期 日 | 作業内容(予定) | 担 当 |
|--------|------------------|-----|
| 9月29日 | ダイコン・ホウレンソウ播種と準備 | 園芸 |
| 10月6日 | 予備日 | |
| 10月13日 | WebGIS/WebRS① | 情報 |
| 10月20日 | イネ収穫 | 作物 |
| 10月27日 | ダイコン・ホウレンソウ間引き | 園芸 |
| 11月10日 | サツマイモ収穫 | 作物 |
| 11月17日 | イネ収量調査① / 予備日 | 作物 |
| 11月24日 | WebGIS/WebRS② | 情報 |
| 12月1日 | ダイコン・ホウレンソウ収穫① | 園芸 |
| 12月8日 | WebGIS/WebRS③ | 情報 |
| 12月15日 | イネ収量調査② | 作物 |
| 12月22日 | ダイコン・ホウレンソウ収穫② | 園芸 |
| 1月12日 | スマート農業実習 | 情報 |
| 1月19日 | 予備日 | |
| 1月26日 | 予備日 | |



ナスの定植



サツマイモの収穫

3.16. 農学インターンシップ実習運営委員会

委員：松岡 寛樹、齋藤 文信、岡部 繭子、加藤 寛、熊倉 慧、大野 英一、岡本 健吾、谷 顕子

活動内容

（目標）

3年次に開講する「農学インターンシップ」は、学生が就業体験を通して自らの適性や将来設計について考えさせる機会となる。実習および事前事後学修を通じて、学習意欲および職業意識を高め、実際の就職活動や就職後に必須となる実務能力を向上させることを目標としている。

（履修登録前事前準備）

前年度はコロナによるオンライン授業が中心であったこともあり、学生のモチベーション向上のため2年次の12月から月1回のガイダンスを対面で実施した。どの回も出席率は6割以上であった。

- | | | |
|-----|------------|-----------------------|
| 第1回 | 2020/12/10 | 本学キャリアサポートセンター |
| 第2回 | 2020/1/14 | 群馬県庁農政部 |
| 第3回 | 2021/2/12 | 群馬県農業協同組合 |
| 第4回 | 2021/3/12 | 群馬県食品工業協会、群馬県産業技術センター |

（履修登録後、実習先の選定）

本年度の履修登録者数は履修登録者数89名、次年度登録予定者2名であった。4～6月までは実習先選定のための準備期間となった。履修登録後のガイダンスでは、履修者に対し公設試を含む賛同団体64団体の紹介と選定方法、および実習先の自己開拓の方法について、説明を行った。公設試は学校推薦のみの受付になるため、5月中旬までに希望調査と集計を先行して行い、県の担当者との最終調整を行った。JAおよび民間団体については、受け入れ可能団体による説明会を5月中に2回実施し、希望調査と集計を行った。

コロナ感染状況悪化のため受け入れ辞退にともなう実習先の変更作業や、希望者数の受け入れ可能数超過による人数調整のため、結果的に3次選考まで実施した。2名の学生は、自己開拓により実習先を確定した。

6月下旬以降は、学生は実習先と事前打合せを行い、実習期間、勤務時間、通勤方法、服装などの確認事項について報告書を作成・提出した。7月に入ってから、依頼状とともに学生調書を送付した。

(実習期間)

8月上旬から12月中旬までが実習期間となった。学生は学校指定の実習ノートを持参し、日々の活動記録を記入、実習先の担当者のチェックを終えてから、業務を終了させる。実習終了後は、学生は礼状をメール等で送付、実習先は評価シートを大学に送付し、実習が完了する。

(実習報告会)

12/8 に報告会に向けての事前説明会を行った。当初はポスター発表方式で開催することとしていたが、1月に入りコロナの感染状況が再び悪化してきたため、同時にオンライン配信を行うこととした。

(一年間のタイムスケジュール)

2021/4/15 ガイダンス (実習先選定方法と時期の説明)

4/27 群馬県農業関連試験場希望調査実施 (～5/10)

5/13 第1回民間企業PR会 (ぐんたね、カネコ種苗)

5/20 第2回民間企業PR会 (ワタミファーム、たむらや、グリーンリーフ、雪国アグリ)

5/29 民間企業希望調査実施実施 (～6/17)

7/8 依頼状の発送

8/9 実習開始 (～12/16)

12/20 インターンシップ実習報告会事前説明会

2022/2/21 実習報告会

(成績評価)

実習先の評価シートならびに大学内での報告会等の評価を点数化し、成績評価を行った。

コロナの警戒レベルが上がったため、実習先確定後に、いくつかの団体から受け入れ中止の連絡があったが、本年度限りの特例措置として、5日間の実習に参加できていれば、実習先都合による不参加に限り、単位認定を行った。対象学生数は公設試5名、民間10名であった。

評価対象外の対象学生数は履修辞退者2名、時間数不足のため評価不能5名であった。

(謝辞)

本年度は、農学部開設後初めてのインターンシップ実習であり、担当教員の手探りが続く中、コロナ禍にも関わらず、多くの団体の厚意により実施することができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

《令和3年度 農学インターンシップ実習 受入先リスト》

(2022/3/25作成)

●R3実習を実施した事業所 (44団体) 122名 (延べ人数)

| 事業所名 | 受入人数 (実績) |
|---------------------------|-----------|
| [公的試験研究機関] | |
| 1 群馬県農業技術センター | |
| 本所 | 8 |
| 稲麦研究センター | 1 |
| 中山間地園芸研究センター | 1 |
| 東部地域研究センター | 2 |
| こんにゃく特産研究センター | 1 |
| 2 群馬県蚕糸技術センター | 2 |
| [JA関連団体] | |
| 3 JAあがつま | 2 |
| 4 JAたかさき | 3 |
| 5 JA新田みどり | 2 |
| 6 JA佐波伊勢崎 | 5 |
| 7 JA前橋市 | 3 |
| 8 JA邑楽館林 | 2 |
| 9 群馬県食肉卸売市場 | 2 |
| 10 株式会社エーコープ東日本 | 3 |
| [情報関連・種苗・農業資材メーカー] | |
| 11 株式会社ぐんたね | 2 |
| 12 株式会社誠和 | 1 |
| [農業生産団体] | |
| 13 有限会社ファームクラブ | 6 |
| 14 がってん野菜合同会社 | 2 |
| 15 グリンリーフ株式会社 | 5 |
| 16 株式会社野菜くらぶ | 6 |
| 17 フレッシュベリー | 3 |
| 18 太陽農産株式会社 | 1 |
| 19 株式会社エバーグリーン富士見 | 1 |
| 20 有限会社滝沢牧場 | 6 |
| 21 公益財団法人神津牧場 | 2 |
| 22 株式会社ケア環境研究所 | 1 |
| 23 (有)あずま産直ねっと | 1 |
| [医薬・化学メーカー] | |
| 24 株式会社蛋白精製工業 | 2 |
| 25 AdaBio株式会社 | 2 |
| [食品メーカー] | |
| 26 株式会社四季菜 | 2 |
| 27 美峰酒類株式会社 | 2 |
| 28 聖徳銘醸株式会社 | 3 |
| 29 株式会社たむらや | 2 |
| 30 株式会社みまつ食品 | 3 |
| 31 タمامラデリカ株式会社 | 3 |
| 32 有限会社群馬包装トーフ | 4 |
| 33 雪国アグリ株式会社 | 2 |
| 34 有限会社まるい | 2 |
| 35 株式会社ナカガワフーズ | 1 |
| 36 正田醤油株式会社 | 1 |
| 37 森産業株式会社 | 3 |
| 38 ハナマルキ株式会社 大利根工場 | 5 |
| 39 群馬製粉株式会社 | 1 |
| 40 株式会社大利根漬 | 2 |
| [流通・小売・外食] | |
| 41 トップリバー | 1 |
| 42 株式会社ぶどうの木 | 1 |
| [社団法人] | |
| 43 一般社団法人群馬薬剤師会環境衛生試験センター | 3 |
| 44 公益財団法人群馬県健康づくり財団 | 2 |

●R3「希望者なし」となった事業所 (7団体)

| 事業所名 | |
|---------------------|--|
| [JA関連団体] | |
| 1 JA甘楽富岡 | |
| [農業生産団体] | |
| 2 仙田いちご園 | |
| 3 株式会社AGRI SCAPE | |
| 4 株式会社モスファーム・サングレイス | |
| 5 株式会社桑谷ファーム | |
| [食品メーカー] | |
| 6 株式会社ROPES | |
| [流通・小売・外食] | |
| 7 有限会社時代屋 | |

●R3「受入中止」となった事業所 (10団体)

| 事業所名 | |
|---------------------------|--|
| [公的試験研究機関] | |
| 1 群馬県水産試験場 | |
| 2 群馬県畜産試験場 | |
| 3 群馬県産業技術センター | |
| 4 群馬県衛生環境研究所 | |
| [JA関連団体] | |
| 5 JA太田市 | |
| 6 JA全農あきた | |
| [情報関連・種苗・農業資材メーカー] | |
| 7 藤田ソリューションパートナーズ株式会社 | |
| 8 カネコ種苗株式会社 | |
| [医薬・化学メーカー] | |
| 9 日本化薬フードテクノ株式会社 | |
| [食品メーカー] | |
| 10 株式会社新進 | |

4. 農学部セミナー

農学と社会の関わりを学生が知り、学ぶ機会として、2021年度は下記のとおり、5回の農学部セミナーを開催した。

第1回農学部セミナー

「求む！群馬県農業の応援団員！～皆さんは、まだまだ、群馬県農業の魅力を知らない！～」

日 時：2021年11月11日（木）16:30～18:00

場 所：10号館2階201号室

講 演 者：群馬県農政部副部長 倉澤 政則 氏

講演内容：群馬県農政部副部長を招へいし、群馬県農業の紹介と群馬県職員採用についての説明会を実施した。群馬県農業の強み・特徴や農業構造、課題、群馬県農政部の新たな挑戦、農業技師の仕事、そして採用試験について、紹介していただいた。また、本セミナーの共同主催者であるキャリアサポートセンター(CSC)からは、センターの紹介が行われ、早い段階からの当センターの利用が促された。

参加者数：学生30名 教員10名 合計40名

第2回農学部セミナー

「農水省農研機構農業ロボティクス研究センターと連携プロジェクト」

「スマート農業における高品質安定生産を実現するためのAIと画像技術の応用」

日 時：2021年10月25日（月）11:00～12:00

場 所：10号館2階206講義室

講 演 者：農研機構基盤技術研究本部 研究員 鄧 博慶 氏

農研機構基盤技術研究本部 研究員 張 煜 氏

講演内容：講演では、「農水省農研機構農業ロボティクス研究センターと連携プロジェクト」と題して、鄧研究員がご担当されている果樹ロボット・プロジェクトでのリモートセンシング技術の応用と課題についてお話し頂いた。また、張研究員より「スマート農業における高品質安定生産を実現するためのAIと画像技術の応用」と題して、圃場管理におけるAI（人工知能）や画像処理技術等の農業への活用についてお話し頂いた。

参加者数：学生20名 教員5名 合計25名

第3回農学部セミナー

「令和2年度食料・農業・農村白書の説明会」

日 時：2021年11月25日（木）16:30～18:00

場 所：10号館2階201号室

講演者：農林水産省・大臣官房 広報評価課 情報分析室 内田 剛氏 氏

講演内容：令和2年度食料・農業・農村白書について、農林水産物・食品の輸出、みどりの食料システム戦略、スマート農業、デジタル変革の推進、鳥インフル・豚熱への対応、新品種の海外流出対策、フードテックなどのトピックス、特集として、新型コロナウイルス感染症の影響と対応、の説明の後、食料安定供給の確保、農業の持続的な発展、農村の振興、災害からの復興・復旧等の現状と対策についての内容が紹介された。その後、質疑応答が行われた。政策に関わる公務員志望の人をはじめ、就職活動をする上でも役立つ情報が多く、日本の農業の実態を把握し、国の政策を理解することは、将来の職業を考えるうえでも参考になったと思われる。

参加者数：学生 70 名 教員 10 名 合計 80 名

第4回農学部セミナー

「新規ゲノム編集技術の開発と応用」

日時：2022年1月17日（月）15:20～16:20

場所：10号館2階204講義室

講演者：東京工業大学生命理工学院 教授 刑部 祐里子 氏

講演内容：ゲノム編集技術は作物育種の分野でも注目を浴びている。講師の刑部博士は、独自のゲノム編集技術を開発し、作物を含めた様々な植物へ応用している。本講義では、ゲノム編集技術を学部生でもわかりやすく説明していただいた。加えて、この技術がどのように利用されているのか、また問題点なども議論していただいた。

参加者数：学生 55 名 教員 5 名 合計 60 名

第5回農学部セミナー

「基礎研究成果を社会実装して世界を救う！？ みどりの地球を守るために…」

日時：2022年1月17日（月）16:30～17:30

場所：10号館2階201講義室

講演者：アクプランタ株式会社 代表取締役

・東京大学大学院農学生命科学研究科 特任准教授（兼任）金 鍾明 氏

講演内容：金博士は理化学研究所で行った研究を社会で役立てるため、スタートアップ企業を立ち上げた。金博士の発見は、植物が乾燥・高温のストレスに暴露されると体内で酢酸が生合成され、これによりストレスに耐性になることを明らかにした。本講義では、理研時代の基礎研究から、研究結果を社会に還元する試みまで幅広く講演された。

参加者数：学生 25 名 教員 5 名 合計 30 名

第1回 農学部セミナー

来たれ！
公務員を目指す諸君

「求む！ 群馬県農業の応援団員！」

～皆さんは、まだまだ、群馬県農業の魅力を知らない！～

- ・群馬県農業の特色
- ・群馬県農政部の組織と仕事
- ・職員採用試験について 等

群馬県農政部 副部長 倉澤政則氏

日時：令和3年11月11日(木)16:30～18:00

会場：10号館201教室

【お問い合わせ】

農学部作物園芸システムコース 荒木 araki-y@takasaki-u.ac.jp

キャリアサポートセンター 湯本 yumoto@takasaki-u.ac.jp

第2回 農学部セミナー

10月25日(月)11:00- 12:00

会場:10号館206教室

農研機構の研究者の方々によるセミナーを開催致します。
奮ってご参加ください。

農水省農研機構農業ロボティクス研究センター と連携プロジェクト

講師：鄧 博慶研究員

農研機構基盤技術研究本部

農業ロボティクス研究センター

複雑な農作業の省力化、自動化のため、農研機構は令和3年4月から新たな組織、農業ロボティクス研究センターを設立しました。本講演では、鄧研究員が担当している果樹ロボットのプロジェクトでのリモートセンシング技術の応用と課題について紹介します。

スマート農業における高品質安定生産を実現 するためのAIと画像技術の応用

講師：張 煜研究員

農研機構基盤技術研究本部

農業情報研究センター AI研究推進室

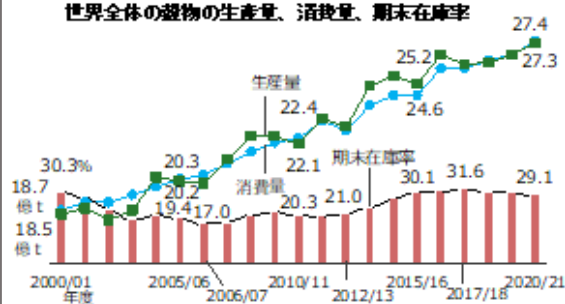
日本の農業では、農業従事者の高齢化・後継者不足に伴う労働力不足をはじめ、耕作放棄地の増加、病虫害の多発による収量と品質の低下など、さまざまな問題を抱えています。そのため、スマート農業を推進するにあたって重要な課題となっています。本講演では、圃場管理におけるAI（人工知能）や画像処理技術等の先端技術を活用し、省力化やコスト低減や収益性向上を目指す病虫害自動計測と植物生育計測の研究課題や事例を紹介します。

【お問合せ】 農業情報システム学研究室 大野 ono-e@takasaki-u.ac.jp

第3回農学部セミナー 食料・農業・農村白書の説明会

11月25日（木）16：30～18：00 201教室

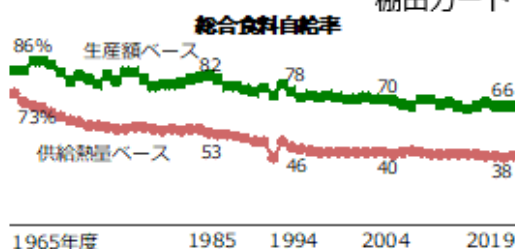
世界全体の穀物の生産量、消費量、期末在庫率



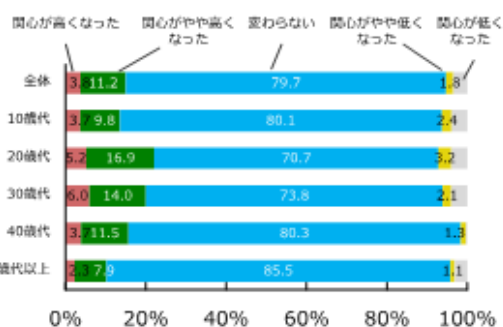
完全栄養食のパン



棚田カード

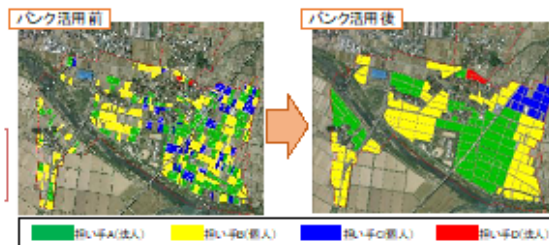


新型コロナウイルス感染症の影響下における地方移住への関心の変化

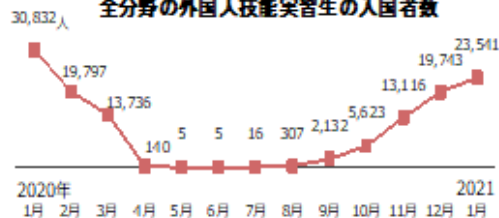


GI保護制度に登録されたゆず

分散錯圖を解消している事例



全分野の外国人技能実習生の入国者数



第4回 農学部セミナー

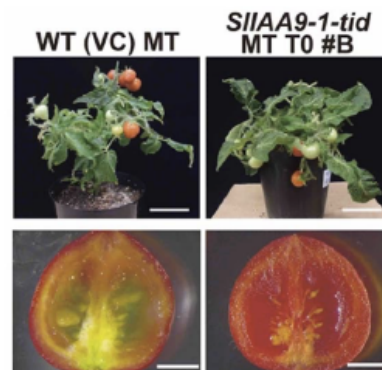
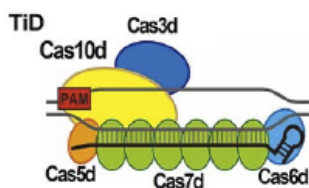
時間・場所: 1月17日(月) 15:20-16:20
10号館204講義室

講師: 刑部 祐里子 先生
東京工業大学 生命理工学院 教授

タイトル: 新規ゲノム編集技術の開発と応用

刑部 先生は日本発のゲノム編集技術開発を精力的に進められています。以下に、刑部 先生の研究室ホームページに記載されている研究内容の概要を添付します。

ゲノム編集とは、任意の標的配列を特異的に切断する人工ヌクレアーゼを用いることにより、微生物から高等真核生物までの幅広い範囲の生物ゲノム・RNAに対して、標的配列特異的に変異を導入することで遺伝子の機能を改変する技術です。近年、ゲノム編集の応用研究が大きく進歩し、難病の克服を目指した遺伝子・細胞治療などの医療・創薬分野や、生物資源を活用する様々な産業、農畜産業での新しい有用品種開発など、様々な分野で広く活用されようとしています。ゲノム編集に広く利用されるCRISPR-Cas9は、微生物の獲得免疫システムの一つであり、標的DNA切断に機能するCas9と、標的DNA配列の認識に機能する20塩基のRNA分子(標的DNAと相補的なRNA)により構成されています。私たちは、微生物に存在する多様なCRISPR-Casの中から、これまで機能が不明だったシアノバクテリア *Microcystis aeruginosa* (マイクロシステイス・エルギノーサ) のCRISPR-Casタイプ-I-Dに注目し、標的の認識やDNA切断活性を明らかにすることでゲノム編集ツールとして利用できることを見いだしました。このシステムを"TiD"と名付け、植物細胞や動物細胞での変異様式の解明と変異導入の効率化を目指した詳細研究を進めています。



CRISPR-Cas type I-D (TiD)の模式図(上)、トマト IAA9遺伝子を標的としたゲノム編集による単為結果性(人工授粉無しに結実する形質)を示す変異個体の作製 (Osakabe et al., 2020 Comm. Biol. より)(右)

刑部研究室ホームページ(https://educ.titech.ac.jp/bio/news/2021_10/061375.html)を
改変して転載

担当者: 吉積 (内線7726、yoshidumi@takasaki-u.ac.jp)

第5回 農学部セミナー

時間・場所：1月17日（月） 16:30-
10号館201講義室

講師：金 鍾明 先生
アクプランタ株式会社代表取締役
東京大学大学院農学生命科学研究科特任准教授（兼任）

タイトル：基礎研究成果を社会実装して世界を救う！？
みどりの地球を守るために…

要旨：植物は生き残るために特別な能力を発揮する。例えば、水欠乏と気温上昇のダブルパンチは、植物にとって深刻な生命の危機になる環境ストレスだ。驚いたことにその危機的状況で、植物はその体内で「お酢」を作りだして生き延びようとする。「お酢」を使った生存メカニズムは、全ての植物が持つ共通した生存方法だった。この発見は遺伝子の活性調節に関わる最新研究分野「エピジェネティクス」の研究成果にも基づいている。地球規模の異常気象で多発する「旱魃と熱波」に対抗し、緑の地球を守るために、この生存メカニズムを上手く利用する。DNA配列の変異・改変を行わずに遺伝子を活性化できる最先端技術とその詳細について紹介する。

金 鍾明 先生の紹介

アクプランタ社ホームページ (<https://ac-planta.com/company/>)
より転載



長崎大学水産学部を卒業後、国立奈良先端大学院大学にて学位を取得（博士：バイオサイエンス）。酵母菌を用いたDNA複製研究を進めるとともに、ミトコンドリア維持に必須のアミノ酸代謝経路を発見した（学位論文）。その後は、UCLA分子生物学研究所にて、酵母菌を用いたエピジェネティクス研究に従事。帰国後、理化学研究所 植物科学系研究センターにて研究員となる。植物研究分野において、環境ストレスとエピジェネティクスを結びつける研究分野を開拓した。

この研究の成果から、全ての植物が酢酸を利用して環境ストレスに耐性化することを発見。研究成果をいち早く社会実装し、地球温暖化による地球の食料問題と環境問題を解決するため、アクプランタ株式会社を設立し、代表取締役社長CEOに就任した。東京大学大学院農学生命科学研究科特任准教授を兼任。

担当者：吉積（内線7726、yoshidumi@takasaki-u.ac.jp）

5. 個人活動報告

5.1. 生命科学コース

外山 吉治（とやま よしはる Yoshiharu Toyama）

【研究室】基礎生命科学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

物理学基礎，生物生産概論 B，有機化学，生物化学，生命科学基礎実験 I・II，
生命科学特別実験

【学内委員会活動】

入試委員会，保健・衛生委員会，健康管理センター運営委員会

【研究業績】

・講演会・学会発表

1. 菊池直樹，齋藤暁子，丸山拓希，吉川朝哉，外山吉治，佐々木直哉，張慧，保坂純男，坂田利弥，曾根逸人. 2 方向観察沈降測定法を用いたマウス受精卵成長過程の質量測定. 量子生命科学先端フォーラム 2021 冬の研究会 2021/12/16-17.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

太田高等看護学院 非常勤講師 「物理学」(2021/05/14-06/25)

・学外委員会

・学会活動

日本バイオレオロジー学会 会員，日本バイオレオロジー学会 監事，JBR 編集委員，バイオレオロジー・リサーチ・フォーラム運営委員

・その他

夢ナビ LIVE2021 (2021/10/02-03)

岡本 健吾（おかもと けんご Kengo Okamoto）

【研究室】基礎生命科学

【職名】講師

【学内教育活動】

・担当授業科目

化学基礎，生物学，システム生物学，生物生産学概論 B，農学インターンシップ，生命科学基礎実験I，生命科学基礎実験II，生命科学特別実験，卒業研究I，専門演習I

・学内行事の担当

遺伝子組換え実験安全講習会，インターンシップ発表会

【学内委員会活動】

教務委員会，遺伝子組換え実験安全委員会（安全主任），インターンシップ委員会

【研究業績】

・原著論文

1. 岡本健吾，田中祐司，本間成佳，森哲哉．生物学におけるリメディアル教育の履修による学生の意識への影響．高崎健康福祉大学紀要. 21:85-94. 2022
2. 熊倉慧，岡本健吾，小林泰斗，永井俊匡，松岡寛樹．マンネンタケにおけるグルタミン酸プロテアーゼ遺伝子の同定と発現解析．日本きのこ学会誌. 29:154-159. 2021

・講演・学会発表

1. 常岡誠，岡本健吾，河崎優希，田中祐司，森哲哉，三原勇太郎，小笠原幸子，矢野博久．KDM2A による rRNA 転写調節に関係する新たな因子．第 39 回 染色体ワークショップ・第 19 回 核ダイナミクス研究会（2021/12/21）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

出前授業 長野県立須坂高崎高校「エピジェネティクスってなんだろう」（2021/10/14）
高校専門教育研修講座「次世代シーケンサーでできること」（2022/10/22）
一日サイエンス教室「血液を使わないで血液型を判定しよう」（2022/03/28）

・学会活動

日本分子生物学会，日本生化学会

川崎 秀樹 (かわさき ひでき Hideki Kawasaki)

【研究室】 生命工学

【職名】 教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 B, 分子生物学, 細胞工学, 昆虫学, 基礎生命科学実験 I, 基礎生命科学実験 II, 生命科学特別実験, 卒業研究 I, 専門演習 I

・ 学内行事の担当

農学部 3 つのポリシー点検会議 (2021/06/23), 農学部避難訓練 (2021/12/08)

・ セミナー開催

第 3 回農学セミナー 農業白書説明会 (2021/11/25)

【学内委員会活動】

FD・自己点検委員会, 危機管理委員会, 学部予算委員会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Rima S, Fujimoto S, Kawasaki H. Cuticular protein genes showing peaks at different stages are probably regulated by different ecdysone responsive transcription factors during larval-pupal transformation. *Gene* 809 (2022) 146002.

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

模擬実験 高崎経済大学付属校 (2021/12/14)

・ 学会活動

日本蚕糸学会・編集委員

藤本 正太 (ふじもと しょうた Shota Fujimoto)

【研究室】 生命工学

【職名】 助教

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生命科学基礎実験I, 生命科学基礎実験II, 生命科学特別実験, 調理学実習, 生物生産学概論 B, 遺伝子工学, 細胞工学

・ 学内行事の担当

新入生オリエンテーション 企画 (2021/04/08), 藤籠祭 農学部紹介動画の作成 (2021/10/23-24), 保護者会 企画 (2021/11/16)

【学内委員会活動】

学生委員会, 地域貢献委員会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Rima S, Fujimoto S, Kawasaki H. Cuticular protein genes showing peaks at different stages are probably regulated by different ecdysone responsive transcription factors during larval-pupal transformation. *Gene* 809, 146002. 2022.

・ 外部予算獲得

1. 科学研究費 研究活動スタート支援 (2020-2021)

【学外活動・社会貢献】

・ 学会活動

日本蚕糸学会, 日本分子生物学会, 昆虫病理研究会

・ 学外教育活動

出前授業 沼田女子高校 「遺伝子組換え技術によるカイコ利用のこれから」 (2021/10/26)

出前授業補助 高崎経済大学附属高校 「昆虫の体内を観る」 (2021/12/14)

・ その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ポスター出展「カイコを利用した物質生産」 (2021/11/24-26)

吉積 毅 (よしづみ たけし Takeshi Yoshizumi)

【研究室】植物生命科学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 B, 生命科学基礎実験 I・II, 生命科学特別実験, 植物生理学, 機器分析学

・セミナー開催

第4・5回農学部セミナー「新規ゲノム編集技術の開発と応用」「基礎研究成果を社会実装して世界を救う!?みどりの地球を守るために...」(2022/01/17)

【学内委員会活動】

広報委員会, キャリアサポート委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Zhang Y, Mitsuda N, Yoshizumi T, Horii Y, Oshima Y, Ohme-Takagi M, Matsui M, Kakimoto T. Two types of bHLH transcription factor determine the competence of the pericycle for lateral root initiation. Nature Plants 7: 633-643. 2021

・外部予算獲得

1. 科学研究費 挑戦的研究萌芽 (代表) (2020-2022)
2. NEDO カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発 (分担) (2021-2022)
3. JST 未来社会創造事業 (分担) (2021-2022)
4. 国内化学企業 (代表) (2019-2021)
5. 国内化学企業 (代表) (2021)

・その他

1. 学内研究交流助成金 (代表) (2019-2022)
2. 特許申請「植物のミトコンドリア遺伝子改変法」(整理番号: B210392JP01)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

夢ナビライブ (オンライン進学イベント) (2021/10/02-03)
ガイダンス (07/20 栃木県小山高校, 03/22 長野県須坂創成高校)
模擬授業 (10/27 県立太田高校, 10/29 栃木県立佐野東高校, 11/26 茨城県立下妻第二高校, 12/13 正知深谷高校, 03/17 県立大泉高校)

・マスコミ広報

大学進学雑誌対応 (スタディーサプリ, 大学ナビ)

・その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ポスター出展 (2021/11/24)

加藤 寛（かとう ひろし Hiroshi Katoh）

【研究室】植物生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産概論 B, 植物保護学, 植物病理学, 生命科学基礎実験I, 生命科学基礎実験II

・学内行事の担当

インターンシップ実習報告会（2022/02/21）

【学内委員会活動】

学生委員会, 教務委員会, 年報委員会, インターンシップ委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Katoh H, Yamazaki S, Fukuda T, Sonoda S, Nishikawa H, Natsuaki T. Detection of *Fusarium oxysporum* f. sp. *fragariae* by using loop-mediated isothermal amplification. Plant Dis 105(4)1072-1079.2021.

・外部予算獲得

1. 受託研究 東日本電信電話株式会社（2021-現在）
2. スマート農業加速化実証プロジェクト（分担）（2021-2022）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

伊勢崎興陽高校 模擬授業「植物の病気の迅速的な診断」（2021/12/7）

・学会活動

日本植物病理学会 会員

・その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ポスター出展「光技術を軸にした総合的病害防除システム開発・確立に向けた取組みのご紹介」東京。（2021/11/24-26）

永井 俊匡（ながい としただ Toshitada Nagai）

【研究室】動物生命科学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 B, 生命科学基礎実験I, 生命科学基礎実験II, 生命科学特別実験,
動物生理学, 動物生体機能学, 味覚科学, 専門演習I, 卒業研究I,
卒業研究(健康栄養学科), 食品栄養学特論(食品栄養学専攻), 栄養学特論(食品栄養学専攻),

・学内行事の担当

入学前教育スクーリング 企画 (2021/12/19, 2022/01/22)
春のオープンキャンパス 模擬授業 (2022/03/12)

【学内委員会活動】

動物実験委員会

【研究業績】

・原著論文

1. 熊倉慧, 岡本健吾, 小林泰斗, 永井俊匡, 松岡寛樹. マンネンタケにおけるグルタミン酸プロテアーゼ遺伝子の同定と発現解析. 日本きのこ学会誌. 29 : 154-159. 2021
2. Ueda R, Umetani K, Konishi F, Mori A, Nagai T, Asakura H, Funaki J, Abe K, Asakura T. Characterization of palatability and ease of deglutition of the five basic tastes by partial least squares regression analysis using myoelectric potential parameters of the submental muscle. Food Sci Technol Res 28: 75-86. 2022.

・総説・解説など

1. 豊田集, 永井俊匡. (-) -エピカテキンのミトコンドリアに対する効果. 栄養学レビュー (Nutrition Reviews 日本版). 29(4) : 317-339. 2021

・講演・学会発表

1. Nagai T, Ogawa M, Saito Y, Miyaguchi H, Yasuoka A, Abe K, Asakura T. Mastication stimuli during weaning period upregulate GABAergic signalling and reduce dendritic spine in thalamus. Food Oral Processing 2021. Valencia & Online. 2021/07/12.
2. 永井俊匡. 長期間の咀嚼は視床下部の遺伝子発現の変化と血圧の低下をもたらす. 日本農芸化学会 2021 年度関東支部例会「日本農芸化学会 2021 年度大会トピックス賞受賞講演」. オンライン. 2021/11/27.

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (代表) (2021-2023)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

出前授業「味覚のふしぎ」 須坂高校 (2021/10/14), 伊勢崎興陽高校 (2021/12/07)
東洋大学 非常勤講師「味とニオイの科学」(2021/04/12-2021/07/26)
前橋工科大学大学院 非常勤講師「生物工学特論I」(2021/11/24)

・学外委員会

日本学術振興会 R021 食と未病マーカー委員会 委員

・学会活動

日本農芸化学学会 会員, 日本栄養・食糧学会 会員, 日本食品科学工学会 会員

・その他

株式会社ナガセ・オンライン配信セミナー 講師「入学予定者の学習状況把握と基礎学力向上を目指して」オンライン. (2019/08/05, 2019/08/23, 2019/09/24)

豊田 集（とよだ つどい Tsudoi Toyoda）

【研究室】動物生命科学

【職名】助手

【学内教育活動】

・担当授業科目

調理学実習，生命科学基礎実験I，生命科学基礎実験II，生命科学特別実験

【学内委員会活動】

ボランティア・市民活動支援センター運営委員会，研究倫理委員会

【研究業績】

・総説・解説など

1. 豊田集，永井俊匡，阿部啓子．(一)-エピカテキンのミトコンドリアに対する効果．栄養学
レビュー．29(4)．2021

・外部予算獲得

1. 三島海雲記念財団学術研究奨励金（2021-2022）

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本農芸化学会 会員，日本栄養・食糧学会 会員

5.2. 作物園芸システムコース

廣瀬 竜郎（ひろせ たつろう Tatsuro Hirose）

【研究室】作物学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, 作物学I, 作物学II, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実験・実習

【学内委員会活動】

入試委員会, 遺伝子組換え実験安全委員会

【研究業績】

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

日本作物学会 評議員, 日本植物生理学会 会員, 日本植物バイオテクノロジー学会 会員

岡部 繭子（おかべ まゆこ Mayuko Okabe）

【研究室】 作物学

【職名】 准教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 A, 栽培管理学, 土壌肥科学, 農学インターンシップ, 作物園芸実習 I, 作物園芸実習 II, 作物園芸特別実験・実習, 専門演習 I, 卒業研究 I

・ 学内行事の担当

フレッシュマンキャンプ代替イベント (2021/04/08), 夏のオープンキャンパス 模擬授業「国産キャベツを一年中食卓へ～高冷地農業の役割～」 (2021/07/18)

【学内委員会活動】

広報委員会, 障がい学生支援委員会, 農学インターンシップ実習運営委員会, 学年担任, 農場運営委員会

【研究業績】

・ 原著論文

1. 高田優紀, 吉田実花, 馬場正, 山口正己, 岡部繭子. カットキャベツの品質保持期間の延長に向けた Active MA 包装. 農流技研会報. 326 : 17-20. 2021.

・ 著書

1. 岡部繭子. 5. 野菜各論 5.8 キャベツ. 小池安比古編『園芸生産学—果樹・野菜・花きの生理生態と栽培技術』朝倉書店. 東京. 84-91. 2021.

・ 講演・学会発表

1. 清水匠, 小保形航大, 北國響香, 廣瀬竜郎, 橋田庸一, 岡部繭子. 群馬県地域特産ネギの品種識別指標の検討. 農産物流通技術研究会 第 12 回公演発表会. 東京. 2021/12/02.

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

前橋市立前橋高校 出前授業「「地域特産作物は面白い！-どのくらい地元の特産作物を知っていますか？-」 (2021/09/24), 宇都宮柏楊高校 出前授業「「地域特産作物は面白い！-どのくらい地元の特産作物を知っていますか？-」 (2022/03/22)

・ 学会活動

日本作物学会, 園芸学会 園芸学研究編集委員, 食品科学工学会, 北陸作物・育種学会, 農産物流通技術研究会, 日本作物学会関東支部 評議員

・ マスコミ広報

日本テレビ 満天★青空レストラン 「群馬県 タアサイ」監修 (2021/11/27)

・ その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ブース担当. 東京. (2021/11/25), 令和 3 年度 市内私立大学・短期大学連携事例発表会 学生発表 (2022/02/22)

橋田 庸一 (はしだ よういち Yoichi Hashida)

【研究室】 作物学

【職名】 助教

【受賞】 日本作物学会 第 251 回講演会優秀発表賞 (2021/04/28)

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, 作物園芸実習 I, 作物園芸実習 II, 作物園芸特別実験・実習, 作物栄養学, 専門演習 I, 卒業研究 I

【学内委員会活動】

ボランティア・市民活動センター運営委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Fukuda A., Hirose T., Hashida Y., Aoki N., Nagano AJ. Selection of transcripts related to low-temperature tolerance using RNA sequencing from F₂ plants between *japonica* and *indica* rice (*Oryza sativa* L.) cultivars. *Funct Plant Biol* 48: 984-993. 2021.
2. Kashima M., Sakamoto RL., Saito H., Ohkubo S., Tezuka A., Deguchi A., Hashida Y., Kurita Y., Iwayama K., Adachi S., Nagano AJ. Genomic Basis of Transcriptome Dynamics in Rice Under Field Conditions. *Plant Cell Physiol* 62: 1436-1445. 2021.

・講演・学会発表

1. Hashida Y., Tezuka A., Kamitani M., Kashima M., Kurita Y., Nagano AJ. Comparative Analysis of Sugar Metabolism in Rice Leaves under Field and Controlled Environments. 10th Asian Crop Science Association Conference. Nagoya. (2021/09/09)
2. Fukuda A., Hirose T., Hashida Y., Aoki N., Nagano AJ. Selection of Transcripts Relating to Chlorophyll Content of Rice Seedlings at Low Temperature Using RNA-Sequencing Data. 10th Asian Crop Science Association Conference. Nagoya. 2021/09/09.
3. 清水匠, 小保形航大, 北國響香, 廣瀬竜郎, 橋田庸一, 岡部繭子. 群馬県特産ネギの品種識別指標の検討. (2021/12/2)
4. Morey SR., Hashida Y., Odahara M., Numata K. Spider silk expression in tobacco confers drought tolerance, with minimal effects on its mechanotypes. 第 63 回日本植物生理学会年会. (2022/03/22)

・外部予算獲得

1. 科学研究費 若手研究 (2019-2021)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

群馬県立尾瀬高校 模擬講義 (2021/12/7)

・学会活動

日本作物学会 広報委員会 委員, 若手・男女共同参画ワーキンググループ 委員, 日本植物生理学会 会員

荒木 陽一（あらき よういち Yoichi Araki）

【研究室】園芸学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, 園芸学, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実習, 専門演習I, 卒業研究I

・学内行事の担当

令和3年度公開講座（中止）, 令和3年度避難訓練（2021/12/08）, 健大パートナーシップ・プログラム（2021/06/01）

・セミナー開催

第1回農学部セミナー「群馬の農業を応援してみませんか」（2021/11/11）, 農作業安全講習（2021/6/17）

【学内委員会活動】

危機管理委員会, 地域連携委員会, キャリアサポート委員会, 子ども・家族支援センター委員会, スマート農場運営委員会

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 荒木陽一, 石神靖弘, 大石高也, 大政謙次. 蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発（第7報）. 園学研別1,'22, P078. 2022.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

小山西高 出前授業（2021/11/08）

・学外委員会

農林水産省イノベーション創出強化研究推進事業評議委員, 埼玉県農業技術センター研究評価委員会委員

・学会活動

園芸学会 会員

・その他

令和3年度研修講座「高校専門教育研修講座」（群馬県, 2021/10/22）, 2020 施設園芸・植物工場展 in 愛知技術相談員（愛知県, 2021/07/14-16）, 令和3年度高崎市医療介護連携相談センター南大類大学内情報交換会（2021/06/14）

石神 靖弘 (いしがみ やすひろ Yasuhiro Ishigami)

【研究室】園芸学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, 園芸システム制御学, 蔬菜園芸学, 作物園芸学実習 I, 作物園芸学実習 II, 作物園芸学特別実験・実習

【学内委員会活動】

FD・自己点検委員会, 学生委員会, 年報委員

【研究業績】

・原著論文

1. Ohashi Y, Murai M, Ishigami Y, Goto E. Light-Intercepting Characteristics and Growth of Tomatoes Cultivated in a Greenhouse Using a Movable Bench System. Horticulturae. 8(1), 60; 2022. <https://doi.org/10.3390/horticulturae8010060>

・講演・学会発表

1. Ohashi Y, Ishigami Y, Goto E. Optimizing plant density of fruit vegetables by using the ray tracing. IX International Symposium on Light in Horticulture. Sweden May 31 – June 2, 2021 (Online).
2. 荒木陽一, 石神靖弘, 大石高也, 大政謙次. 蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発 (第 7 報). 園芸学会令和 4 年春季大会 (2022/03/20-21, オンライン)

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (代表) (2019-2021)
2. 科学研究費 基盤研究 A (分担) (2018-2022)
3. NEDO プロジェクト (2021-2022)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

出張講義 群馬県立伊勢崎興陽 (2022/03/17)

・学会活動

生物環境工学会 理事・編集委員, 農業情報学会 理事, 生態工学会 理事, 日本農業気象学会 会員

大政 謙次（おおまさ けんじ Kenji Omasa）

【研究室】 農業情報システム学

【職名】 学部長・学科長・教授

【受賞】 国立環境研究所名誉研究員(2021/07/30)

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 A, 植物画像診断学, 農業情報計測学, 作物園芸実習I, 作物園芸実習 II, 作物園芸特別実験・実習, 卒業研究I, 専門演習I

・ 学内行事の担当

学部長・学科長

【学内委員会活動】

農学部長, 生物生産学科長, 法人評議員会, 大学運営協議会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Liu M, Sun Z, Lu S, Omasa K. Combining multiangular, polarimetric, and hyperspectral measurements to estimate leaf nitrogen concentration from different plant species. IEEE T. Geosci. Remote Sens. 1558-0644: 1-15. 2021.
2. Sun Z, Bu Z, Lu S, Omasa K. A general algorithm of leaf chlorophyll content estimation for a wide range of plant species. IEEE T. Geosci. Remote Sens. 0196-2892:1-14. 2021.
3. Liu Y, Hatou K, Aihara T, Kurose S, Akiyama T, Kohno Y, Lu S, Omasa K. Assessment of naked barley leaf SPAD values using RGB values under different growth stages at both the leaf and canopy levels. Eco Eng. 33(2): 31-38. 2021.

・ 総説・解説など

1. 大政謙次. シンポジウムの意義と概要 「2021 年度日本農学会シンポジウム コロナ禍のその先へ～農学のチャレンジ～」 農業及び園芸 97(1):1-2. 2022.

・ 報告書など

1. 大政謙次. 新年のご挨拶 農学アカデミー便り 第 135 号.2022

・ 講演・学会発表

1. 大政謙次. 総合討論. 閉会挨拶. 2021 年度日本農学会シンポジウム「コロナ禍のその先へ～農学のチャレンジ～」 2021/10/02. オンライン開催
2. 大政謙次. 開会挨拶 2021 年度日本農学アカデミー・公財法人農学会共同主催公開シンポジウム「有機農業のいまとこれからー持続可能社会への貢献」 2021/11/06. オンライン
3. K. Omasa. Plant functional remote sensing and smart farming applications. 2021 International Symposium on Efficient Production of Value-added Plants (EPVP 2021). 2021/12/26-28. Hangzhou (invited) on-line
4. 大政謙次. 農業と地域の持続的発展のためのスマート農業の最新動向. ふくいスマート農業推進大会. 2022/03/09. 福井県産業会館. 大会資料: 1-100 (招待講演)
5. 大政謙次. 閉会挨拶. 公財農学会・日本農学アカデミー 共同主催公開シンポジウム「持続可能な食料システムに向けて」(2022/03/12)オンライン開催
6. 荒木陽一・石神靖弘・大石高也・大政謙次, 蒸発潜熱を利用した紙ポット育苗イチゴの花芽分化促進技術の開発 (第 7 報). 園芸学会令和 4 年春季大会. 2021/03/17-21. オンライン開催
7. 大政謙次・清水 庸. 総合討論. 開会挨拶. 日本農業気象学会 2022 年全国大会公開シンポジウム「気候変動とその対策～未来へのアプローチ」 2022/03/23. オンライン開催
8. 大政謙次. 植物の構造と機能のリモートイメージング研究の歩みとフェノタイピング. OS「Close-Range Remote Sensing とフェノタイピング」日本農業気象学会 2022 年全国大

会. 2022/03/22-24. オンライン開催.

・ **外部予算獲得**

科学研究費 国際共同研究強化B (分担) (2018-2021). 共同研究 2 社

【学外活動・社会貢献】

・ **学外教育研究活動**

北京大学環境エネルギー学院客座教授, 東北師範大学客座教授, 愛媛大学客員教授・農学部非常勤講師, 福井県立大学客員教授, 東京大学名誉教授・農学部非常勤講師, 国立環境研究所名誉研究員, GIS expert emeritus

・ **学外委員会**

日本学術会議連携会員 (環境科学分科会副委員長, 農業生産環境工学分科会, 農業情報システム分科会, 地域総合農学分科会, CIGR 分科会, FE/WCRP 合同分科会), 群馬県農政審議会会長, (公財)日本海洋科学振興財団評議員, (一社) 学術著作権協会理事, (一社)日本国際交流発展促進協会理事, 公益信託エスベック地球環境研究・技術基金運営委員

・ **学会活動**

日本農学アカデミー会長・理事, 日本農学会副会長・理事, 日本生命科学アカデミー理事, 日本農業工学会名誉顧問・理事, 農業情報学会名誉会長・理事, 日本生物環境工学会特別名誉会員, 生態工学会名誉会員・特別理事, 日本農業気象学会名誉会員・顧問, 酸性雨研究会顧問, 光合成学会幹事, 日本リモートセンシング学会評議員, もったいない学会評議員, (財) 遺伝学普及会 雑誌「遺伝」編集委員, 日本農業気象学会 2022 年全国大会及び International Symposium on Agricultural Meteorology 2022 (ISAM2022)大会委員長 (公開シンポジウム「気候変動とその対策～未来へのアプローチ」, OS「Close-Range Remote Sensing とフェノタイピング」企画), AGri-Bioscience Monographs (AGBM)editor, Remote Sensing guest editor, The XX CIGR World Congress 2022 organizing committee member.

・ **マスコミ広報**

日本農民新聞 「農業系教育機関のいま: 高崎健康福祉大学農学部」(2021/06/15)

日本農業新聞 「福井スマート農業推進大会」(2022/03/10)

福井新聞 「福井スマート農業推進大会」(2022/03/10)

群馬テレビ 「伊勢崎興陽高との連携協定締結」(2022/03/16)

上毛新聞 「伊勢崎興陽高との連携協定締結」(2022/03/17)

・ **その他**

アグリビジネス創出フェア 2021. ポスター出典「植物機能リモートセンシングとスマート農業」東京 (2021/11/24-26).

清水 庸 (しみず よう Yo Shimizu)

【研究室】 農業情報システム学

【職名】 教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

農業情報解析学, 農業情報システム学, 生物生産学概論 A, 卒業研究 I, 専門演習 I, 作物園芸特別実験・実習, 作物園芸実習 II, 作物園芸実習 I

・ 学内行事の担当

教務関連ガイダンスの実施 (2021/04/05), コース選択の実施 (2 年生対象, 2021/04/12-2021/09/08), 春のオープンキャンパス 学科紹介 (2022/03/12)

【学内委員会活動】

新型コロナウイルス感染症対策本部・教務部会, 教務委員会, 教養教育専門部会, 学部運営委員会, 大学院設置準備委員会, 農場運営委員会

【研究業績】

・ 報告書など

1. 木谷 収, 町田武美, 中野和弘, 松下秀介, 清水 庸, 他 7 名および実教出版 (2022) 農業と情報. 「農業」文部科学省検定済教科書 (検定済年 2021 年), 実教出版, 東京, 216p.
2. 木谷 収, 町田武美, 中野和弘, 松下秀介, 清水 庸, 他 7 名および実教出版 (2022) 農業と情報 教授用指導書. 実教出版, 東京, 128p.

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

群馬県立藤岡中央高校 模擬授業「環境・農業と地理空間情報 ～リモートセンシング・GIS データと解析～」(オンライン) (2021/10/15), 高大連携パートナーシッププログラム 高崎健康福祉大学高崎高等学校「ドローンの操縦を学ぼう！」(農業情報システム学研究室の他教員とともに実施) (2021/06/07-08)

・ 学会活動

農村計画学会 評議員, 日本農業気象学会 評議員, リモートセンシング・GIS 研究会幹事, 2022 年全国大会・実行委員会委員長, 農業情報学会 副会長, 理事, リモートセンシング部会・部会長, 広報・社会貢献委員会・副委員長, 編集委員会, 生態工学会 役員

・ その他

第 3 回群馬県との共同研究に向けた交流会 発表「地球温暖化および気候変化シナリオに関わるトピックの紹介」(2021/12/16)

大野 英一（おおの えいいち Eiichi Ono）

【研究室】 農業情報システム学

【職名】 講師

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, 植物環境計測学, 農業情報計測学, 作物園芸実習I, 作物園芸実習II, 作物園芸特別実験・実習, 農学インターンシップ, 卒業研究I, 専門演習I

・セミナー開催

第 2 回農学セミナー「農水省農研機構農業ロボティクス研究センターと連携プロジェクト」, 「スマート農業における高品質安定生産を実現するための AI と画像技術の応用」(2021/10//25), 農学インターンシップ説明会（群馬県農政部）(2022/01/13)

【学内委員会活動】

図書館運営委員会, 国際交流委員会, インターンシップ委員会, 農場運営委員会

【研究業績】

・ Proceedings

1. Omasa K, Ono E, Ishigami Y, Shimizu Y, Araki Y. Plant functional remote sensing and smart farming applications. 2021 International Symposium on Efficient Production of Value-added Plants (EPVP2021) December 27 to 28, 2021.

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

高大連携パートナーシッププログラム 高崎健 康福祉大学高崎高等学校「ドローンの操縦を学ぼう！」（農業情報システム学研究室の他教員と分担実施）(2021/06/07-08)

・学外委員会

NEDO 委託事業推進委員会「微細藻類由来バイオジェット燃料生産の産業化と CO₂利用効率の向上に資する研究拠点及び基盤技術の整備・開発」委員

・学会活動

生態工学会国際理事副委員長, The American Society of Agricultural and Biological Engineers (ASABE) 会員, 日本生物環境工学会会員, 日本農業気象学会・2022 年全国大会実行委員

・社会貢献

群馬県との連携協定「群馬県における農業振興及び 6 次産業化推進に関わる連携協定」に基づく群馬県農政部への気象観測データの定期的な提供

5.3. フードサイエンスコース

松岡 寛樹 (まつおか ひろき Hiroki Matsuoka)

【研究室】食品学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

農学部：生物生産学概論 B, フードサイエンス基礎実験 I, フードサイエンス基礎実験II, 食品学I, II, 食品機能学, 卒業研究I, 専門演習I, フードサイエンス特別実験, 農学インターンシップ

健康福祉学部：卒業研究, 健康福祉学研究科：食品科学総合演習I・II, 食品栄養学特論, 食品学特論, 応用食品学特論, 食品栄養学特別研究, 食品学研究, 応用食品学研究, 特殊研究

【学内委員会活動】

教務委員会, 農学インターンシップ委員会, 動物実験委員会

【研究業績】

・原著論文

1. 熊倉慧, 岡本健吾, 小林泰斗, 永井俊匡, 松岡寛樹. マンネンタケにおけるグルタミン酸プロテアーゼ遺伝子の同定と発現解析. 日本きのこ学会誌. **29**. 154-159. 2021
2. Takahashi A, Yamada T, Kobayashi T, Kumakura K, Matsuoka H. Effects of fluorescent and LED irradiation on color fading and pale coloration of salted radish root (*takuan-zuke*). Food Science and Technology Research. <https://doi.org/10.3136/fstr.FSTR-D-21-00233>. 2021
3. Kobayashi W, Kobayashi T, Takahashi A, Kumakura K, Ayabe S, Matsuoka H. Branched-chain amino acid synthesis and glucosinolate-myrosinase system during takuan-zuke processing of radish root. J Food Biochem. **45**: e13983. doi: 10.1111/jfbc.13983. 2021

・著書

1. 食品学-食品成分と機能性 (第2版) 19章 植物性食品 p177-208 (2021)

・報告書など

1. こんにやく下処理効果実証試験についての報告. 阿部雅子・綾部園子・小林泰斗・熊倉慧・松岡寛樹 日本こんにやく協会.2022/02/28.

・講演・学会発表

1. 頓宮寧々, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. タクアン漬けのアンギオテンシンI変換酵素阻害活性因子の探索. 日本食品科学工学会 第68回大会. 2021/08/28.
2. 頓宮寧々, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. タクアン漬けのアンギオテンシンI変換酵素阻害活性因子の探索. 群馬県分析研究会 第46回研究発表会. 2021/12/10

・メディア関連

1. 特集・眼精疲労/食と栄養「ブルーベリー」 上毛新聞 元気ライフ 6月号 Vol.63
2. 特集・狭心症/食と栄養「落花生」 上毛新聞 元気ライフ 10月号 Vol.67
3. 特集・不妊症/食と栄養「アスパラガス」 上毛新聞 元気ライフ 2月号 Vol.71
4. やせる!おなかすっきりダイコン特効レシピ マキノ出版ムック (2022年1月)

・外部予算獲得

1. アキモ奨学寄付金研究
2. ケアコム奨学寄付金研究
3. 日本ケロググ奨学寄付金研究
4. 株式会社新進奨学寄付金研究
5. ナカガワフーズ奨学寄付金研究
6. 日本こんにやく協会奨学寄付金研究

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

1. 漬物グランプリ 2021 審査委員 (2021/04/09)
2. 農産物漬物 J A S 工場の品質管理担当者等資格取得のための専門講習会 (2021/05/27)
3. 長野県漬物品評会審査員 (2021/10/23)
4. 2021 年度食品衛生管理者登録講習会講師 (2022/02/10,15,17, 25, 28, 2022/03/02)
5. 栃木農業高校進路説明会 (2021/07/08)
6. 宇都宮女子高等学校出前授業 (2021/11/02)

・学外委員会

全国漬物検査協会理事

・学会活動

日本食品科学工学会代議員

熊倉 慧 (くまくら けい Kei Kumakura)

【研究室】食品学

【職名】准教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

農学部：生物生産学概論 B, フードサイエンス基礎実験 I, フードサイエンス基礎実験II, 食品保蔵学, 食品加工学, 食品機能学, 卒業研究I, 専門演習I, フードサイエンス特別実験, 農学インターンシップ

健康福祉学部：食物学特別講座I, 卒業研究, 総合演習III 健康福祉学研究科：応用食品学特論

【学内委員会活動】

広報委員会, 障がい学生支援委員会, 農学インターンシップ委員会, 大学院設置準備委員会

【研究業績】

・原著論文

1. 熊倉慧, 岡本健吾, 小林泰斗, 永井俊匡, 松岡寛樹. マンネンタケにおけるグルタミン酸プロテアーゼ遺伝子の同定と発現解析. 日本きのこ学会誌. **29**. 154-159. 2021
2. Takahashi A, Yamada T, Kobayashi T, Kumakura K, Matsuoka H. Effects of fluorescent and LED irradiation on color fading and pale coloration of salted radish root (*takuan-zuke*). Food Science and Technology Research. <https://doi.org/10.3136/fstr.FSTR-D-21-00233>. 2021
3. Kobayashi W, Kobayashi T, Takahashi A, Kumakura K, Ayabe S, Matsuoka H. Branched-chain amino acid synthesis and glucosinolate-myrosinase system during takuan-zuke processing of radish root. J Food Biochem. **45**: e13983. doi: 10.1111/jfbc.13983. 2021

・報告書など

1. こんにゃく下処理効果実証試験についての報告. 阿部雅子・綾部園子・小林泰斗・熊倉慧・松岡寛樹 日本こんにゃく協会.2022/02/28.

・講演・学会発表

1. 頓宮寧々, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. タクアン漬けのアンギオテンシンI変換酵素阻害活性因子の探索. 日本食品科学工学会 第 68 回大会. 2021/08/28.
2. 頓宮寧々, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. タクアン漬けのアンギオテンシンI変換酵素阻害活性因子の探索. 群馬県分析研究会 第 46 回研究発表会. 2021/12/10

・外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 C (代表) (2021-2024)
2. 日本こんにゃく協会奨学寄付金研究 (2021-2022)

・その他

1. 学内研究交流助成金 (2019-2021) (共同研究者)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

2021 年度食品衛生管理者登録講習会講師 (2022/02/19, 22, 23, 24)
進路説明会講師 群馬常磐学園常磐高等学校 (2021/06/21)
進路説明会講師 太田市立太田高等学校 (2021/09/15)

・学会活動

日本きのこ学会 編集委員, 日本食品科学工学会, 日本農芸化学会

・マスコミ広報

うつ病/食と栄養「タケノコ」元気らいふ 5 月号上毛新聞 (2021/05/12)
慢性便秘症/食と栄養「リンゴ」元気らいふ 9 月号上毛新聞 (2021/09/08)
胃潰瘍/食と栄養「ブロッコリー」元気らいふ 1 月号上毛新聞 (2022/01/12)

・その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ポスター出展 (2021/11/25)

小林 泰斗 (こばやし たいと Taito Kobayashi)

【研究室】食品学

【職名】助教

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 B, フードサイエンス基礎実験I, フードサイエンス基礎実験II, 卒業研究I, 専門演習I, フードサイエンス特別実験

【学内委員会活動】

入試委員会, 地域貢献委員会, 感染性廃棄物・廃液処理委員会

【研究業績】

・原著論文

1. Wataru K, Taito K, Asaka T, Kei K, Sonoko A, Hiroki M. Branched-chain amino acid synthesis and glucosinolate-myrosinase system during takuan-zuke processing of radish root. Journal of Food Biochemistry 2021, 45(12), e13983; <https://doi.org/10.1111/jfbc.13983>
2. Asaka T, Tsuyoshi Y, Taito K, Kei K, Hiroki M. Effects of fluorescent and LED irradiation on color fading and pale coloration of salted radish root (*takuan-zuke*). Food Science and Technology Research 2022
3. 熊倉慧, 岡本健吾, 小林泰斗, 永井俊匡, 松岡寛樹. マンネンタケにおけるグルタミン酸プロテアーゼ遺伝子の同定と発現解析. 日本きのこ学会誌, **29**, 154-159, 2021

・報告書など

1. こんにやく下処理効果実証試験についての報告. 阿部雅子・綾部園子・小林泰斗・熊倉慧・松岡寛樹 日本こんにやく協会.2022/02/28.

・講演・学会発表

1. 頓宮寧々, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. タクアン漬けのアンギオテンシンI変換酵素阻害活性因子の探索. 群馬県分析研究会 第46回研究発表会 (2021/12)
2. 頓宮寧々, 小林泰斗, 熊倉慧, 高橋朝歌, 松岡寛樹. タクアン漬けのアンギオテンシンI変換酵素阻害活性因子の探索. 食品科学工学会 第68回大会 (2021/8)

・外部予算獲得

1. 日本こんにやく協会奨学寄付金研究 (2021-2022)

【学外活動・社会貢献】

・学会活動

食品科学工学会 会員

岡田 早苗（おかだ さなえ Sanae Okada）

【研究室】食品微生物学

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産概論 B, 微生物学, 応用微生物学, 食品免疫学, フードサイエンス基礎実験 I, フードサイエンス基礎実験 II, フードサイエンス特別実験, 専門演習I, 卒業研究I

【学内委員会活動】

健康管理センター運営委員会, キャリアサポート委員会, 学部運営委員会, 大学院設置委員会

【研究業績】

・講演・学会発表

1. 岡田早苗. 漬物と乳酸菌の話. 第4期「発酵の学校」講師 日本橋室町野村ビル. 2021/9/11
2. 岡田早苗. 乳酸菌世界の新たな研究資源開発をー古典的かつ重要な研究の進め方ー. 日本乳酸菌学会 30周年記念シンポジウム. シンポジスト オンライン. 2021/11/25.

・外部予算獲得

1. 株式会社 大泉工場（共同研究費）
2. 群栄化学 株式会社（研修費）

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

模擬授業 健大農学部オープンキャンパス（2021/07/18）
模擬授業 足利女子高校（2021/09/27）
模擬授業 県立富岡高校（2021/10/21）

・学会活動

日本農芸化学会, 日本生物工学会, 日本食品科学工学会, 日本微生物資源学会,
日本乳酸菌学会（名誉会員）顧問（編集担当）

辻 聡 (つじ あきら Akira Tsuji)

【研究室】 食品微生物学

【職名】 助教

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産概論 B, 調理学実習, フードサイエンス基礎実験 I, フードサイエンス基礎実験 II, フードサイエンス特別実験, 食品機能学, 専門演習I, 卒業研究I

・ 学内行事の担当

体育祭副担当 (オンライン配信および開催補助), 藤龍祭 (学科・研究を紹介する動画作成), 保護者会 (オンライン配信)

【学内委員会活動】

教務委員会, 学生委員会, 年報委員会, 農学部互助会

【研究業績】

・ 報告書など

1. 辻聡, 令和3年度 タカノフーズ株式会社共同研究報告書

・ 講演・学会発表

1. 辻聡, 舘博. 市販納豆の Dipeptidyl peptidase 4 阻害活性について, 第30回日本健康医学会総会 東京農業大学. 2021/11/13

・ 外部予算獲得

1. 醤油 PR 協議会 (2021-2022)
2. タカノフーズ株式会社 (2019-2021)
3. 岡直三郎商店 (2021-2023)

・ その他

1. 学内研究交流助成金 (2019-2022) (共同研究者)

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

ガイダンス (職業人、農学・バイオ) 健大附属高崎高校 (2021/06/28)

模擬実験講義 県立藤岡中央高校 (2021/10/14)

模擬実験講義 栃木県立栃木農業高校 (2021/12/07)

・ 学会活動

日本乳酸菌学会 編集委員, 泊まり込みセミナー委員, 全国味醂協会 会員, 日本健康医学会 評議員, 日本食品保蔵科学会 会員

石岡 大成 (いしおか たいせい Taisei Ishioka)

【研究室】 食品安全学

【職名】 准教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

食品衛生学, 食品安全学, フードサイエンス基礎実験 I, フードサイエンス基礎実験II, フードサイエンス特別実験, 卒業研究I, 専門演習I, 食品安全マネジメント基礎講座

【学内委員会活動】

保健衛生委員会, 研究倫理委員会, FD・自己点検委員会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Motoya T, Nagata N, Kashimura R, Ohashi K, Saito A, Osawa S, Goto K, Iwama S, Yanaoka T, Okayama K, Hirai S, Sugai T, Murakami K, Ishioka T, Ryo A, Katayama K, Kimura H. A longitudinal study on enteric virus contamination in bivalves along the coast of Ibaraki Prefecture, Japan. J Food Prot. 2021 Jun 1;84(6):946-952.

・ 報告書

1. 石岡大成, 松永安由, 群馬県動物愛護センター職員一同. 群馬県内の犬および猫における *Escherichia albertii* の浸潤状況. 健康づくり研究助成「あさお賞」. 2021.

・ 外部予算獲得

1. AMED 医療研究開発推進事業費補助金 病原体ゲノミクスを基盤とした病原体検索システムの利活用に係る研究 (分担研究題名: 包括的感染症危機管理ネットワーク構築) 研究協力者
2. AMED 医療研究開発推進事業費補助金 重症例由来下痢症起因菌のサーベイランス手法および病原性評価系の確立に関する研究 (分担補助事業課題名: 志賀毒素産生性 *Escherichia albertii* の疫学的解析) 研究協力者
3. 株式会社新進 奨学研究寄付金

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

群馬パース大学 ゲストスピーカー「微生物学実習」(2021/04/01-2021/06/30), 国立感染症研究所 ゲストスピーカー「新興再興感染症研修(レジオネラ)」(2021/10/04-06)

・ 学会活動

日本食品微生物学会 評議員および学術総会実行委員, 日本細菌学会 会員, 日本感染症学会 会員, 日本獣医師会 会員

・ その他

SATREPS Web meeting with Ghana (オンライン)

松永 安由 (まつなが あゆ Ayu Matsunaga)

【研究室】 食品安全学

【職名】 助手

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

フードサイエンス基礎実験 I, フードサイエンス基礎実験II, フードサイエンス特別実験,
食品免疫学, 卒業研究I, 専門演習I

【学内委員会活動】

入試委員会

【研究業績】

・ 原著論文

1. Saika A, Nagatake T, Hirata S, Sawane K, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Morimoto S, Node E, Tiwari P, Hosomi K, Matsunaga A, Honda T, Tomonaga T, Arita M, Kabashima K, Kunisawa J, ω3 fatty acid metabolite, 12-hydroxyeicosapentaenoic acid, alleviates contact hypersensitivity by downregulation of CXCL1 and CXCL2 gene expression in keratinocytes via retinoid X receptor α. FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology 35(4) e21354. 2021.
2. Miyoshi Y, Saika A, Nagatake T, Matsunaga A, Kunisawa J, Katakura Y, Yamasaki-Yashiki S. Mechanisms underlying enhanced IgA production in Peyer's patch cells by membrane vesicles derived from *Lactobacillus sakei*. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 85 (6) :1536–1545. 2021.
3. Nagatake T, Kishino S, Urano E, Murakami H, Kitamura N, Konishi K, Ohno H, Tiwari P, Morimoto S, Node E, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Sawane K, Honda T, Inoue A, Uwamizu A, Matsuzaka T, Miyamoto Y, Hirata S, Saika A, Shibata Y, Hosomi K, Matsunaga A, Shimano H, Arita M, Aoki J, Oka M, Matsutani A, Tomonaga T, Kabashima K, Miyachi M, Yasutomi Y, Ogawa J, Kunisawa J. Intestinal microbe-dependent ω3 lipid metabolite αKetoA prevents inflammatory diseases in mice and cynomolgus macaques. Mucosal Immunology. 2022.

・ 講演・学会発表

1. Nagatake T, Urano E, Honda T, Saika A, Hosomi K, Matsunaga A, Arita M, Kabashima K, Yasutomi Y, Kunisawa J. Intestinal microbe-dependent omega-3 lipid metabolite alpha-KetoA prevents inflammatory diseases. 第 50 回日本免疫学会総会・学術集会. 奈良 (オンラインハイブリッド開催). 2021/12/09.
2. 三宅司郎, 大仲賢二, 野田響子, 西野友美, 河上紘子, 山本哲也, 平川由紀, 澤根紗貴子, 杉田和俊, 松永安由, 小林直樹, 山本敏弘, 吉矢 拓, 渡辺麻衣子, 坂真智子, 門間敬子, 久城真代. トリコテセン系カビ毒 DON および NIV に選択的に反応する抗体の調製. 日本マイコトキシン学会第 87 回学術講演会. オンライン. 2022/01/07.

・ 外部予算獲得

1. 令和 3 年度健康づくり研究助成「あさを賞」(2021-2022) (研究代表者)

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

麻布大学非常勤講師「食品安全学II」(2021/04/26), 「HACCP 管理論」(2021/04/29-30, 5/8-9)

・ 学会活動

日本栄養・食糧学会, 日本農芸化学会, 日本免疫学会

・ その他

アグリビジネス創出フェア 2021 説明員として参加 東京. (2022/11/24-26)

5.4. アグリビジネスコース

草苺 仁 (くさかり ひとし Hitoshi Kusakari)

【研究室】アグリビジネス

【職名】教授

【学内教育活動】

・担当授業科目

生物生産学概論 A, アグリビジネス論, 食料経済学, 農業保護と貿易の経済学,
アグリビジネス特別演習, 専門演習 I, 卒業研究 I

・学内行事の担当

保護者会 個別面談 (2021/11/13), 春のオープンキャンパス 個別面談 (2022/03/12),
高校生論文コンテスト 2021 (2021/04/15-11/15)

【学内委員会活動】

FD・自己点検委員会, 教務委員会

【研究業績】

・原著論文

1. 岡村伊織, 草苺仁, 藤栄剛. GIS による広域的な圃場分散状況の把握と農地中間管理事業の評価. 農村計画学会論文集. 2021 年 1 (1): 29-39. 2021.
2. 草苺仁. 先駆者損失と「自利利他」の精神. 高崎健康福祉大学紀要 21: 81-90. 2021.

・講演・学会発表

1. 谷頭子, 住本雅洋, 草苺仁. 食生活の外部化と米消費の多様化—米需要の弾力性の計測—. 2022 年度日本農業経済学会大会. 2022/03/27.

・外部予算獲得

1. 科学研究費・基盤研究 C (2019-2022) (代表)

【学外活動・社会貢献】

・学外教育活動

模擬講義

宇都宮南高等学校 (2021/07/06), 高崎健康福祉大学附属高崎高等学校 (2021/07/08),
前橋育英高等学校 (2021/11/18), 群馬県立中央中等教育学校 (2022/02/09)

・学会活動

日本農業経済学会 名誉会員, 日本フードシステム学会 理事,
日本農業経営学会 正会員, 日本家政学会 正会員

・マスコミ広報

上毛新聞 論説「有機農業の面積拡大へ—目標の達成へ具体策を—」(2021/4/22)

齋藤 文信（さいとう ふみのぶ Fuminobu Saito）

【研究室】 アグリビジネス

【職名】 准教授

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 A, 農業経営戦略論, フードサービス産業論, 食と農のブランド化論, アグリビジネス特別演習, 卒業研究I, 専門演習I

・ 学内行事の担当

保護者会「海外日本食事情演習」説明担当（2021/11/13）, 春のオープンキャンパス個別相談担当（2022/03/12）, 高校生論文コンテスト 2021（2021/04/15-11/15）

【学内委員会活動】

入試委員会, 国際交流委員会, 農学インターンシップ実習運営委員会

【研究業績】

・ 講演・学会発表

1. 齋藤文信. 海外進出を図る農業法人の効用構造—進出目的の類型化と効用評価フレームによる分析—. 日本農業経営学会. 鹿児島（オンライン開催）. 2021/09/19.
2. 齋藤文信. CSV についての解説及びリレートークコーディネーター. 「農」×「企業」連携セミナー. 農林水産省農村振興局・一般財団法人都市農地活用支援センター. 東京. 2021/11/08.

・ 外部予算獲得

1. 科学研究費 基盤研究 B（分担）（2017-2021）
2. 科学研究費 基盤研究 C（分担）（2017-2021）
3. 群馬県やま・さと応援隊活動調査（2021）（代表）

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

三重大学 非常勤講師「直売所調査について」（2021/07/09）, 夢ナビライブ 2021Web Summer 「質問対応・研究室訪問」（2021/07/10）, 出前授業群馬県立富岡高等学校（2021/10/21）, 出前授業栃木県立真岡女子高等学校（2021/11/04）, 出前授業高崎健康福祉大学高崎高等学校（2021/11/22）

・ 学外委員会

伊勢崎地方卸売市場あり方検討委員会委員長

・ 学会活動

日本農業経営学会常任編集委員, 日本フードサービス学会研究委員会委員, 日本フードシステム学会会員, 日本農業経済学会会員, 東北農業経済学会会員

・ マスコミ広報

上毛新聞「伊勢崎地方卸売市場将来性巡り議論」（2022/02/28）, 群馬テレビニュース「伊勢崎地方卸売市場あり方検討委「貸付終了やむなし」提言書提出」（2022/3/29）, 上毛新聞「伊勢崎地方卸売市場土地貸与終了やむを得ない」（2022/3/30）

・ その他

アグリビジネス創出フェア 2022 ポスター出展「農産物のさらなる輸出拡大に向けて」東京.（2021/11/24-26）, 全国ウメ生産者女性サミット 2022「シンポジウムコーディネーター」安中市.（2022/01/22）

谷 顕子 (たに あきこ Akiko Tani)

【研究室】 アグリビジネス

【職名】 講師

【学内教育活動】

・ 担当授業科目

生物生産学概論 A, 現代農業事情, 食と農の地域社会学, 簿記会計学,
アグリビジネス特別演習, 専門演習I, 卒業研究I

・ 学内行事の担当

フレッシュマンキャンプ代替イベント (2021/04/08)
夏のオープンキャンパス 模擬授業「世界の食料問題について考えてみませんか」(2021/07/17)
保護者会 個別面談 (2021/11/13)
高校生論文コンテスト 2021 (2021/04/15-11/15)

【学内委員会活動】

広報委員会, キャリアサポート委員会, 農学インターンシップ実習運営委員会, 学生委員会,
年報委員会, 3年生学年担任

【研究業績】

・ 講演・学会発表

1. 谷顕子, 住本雅洋, 草苺仁. 食生活の外部化と米消費の多様化—米需要の弾力性の計測—.
2022年度日本農業経済学会大会. 2022/03/27.

【学外活動・社会貢献】

・ 学外教育活動

出前授業 常磐大学高等学校 (オンライン, 2021/10/27)

・ 学会活動

日本農業経営学会 常任編集委員
日本農業経済学会 正会員, 地域農林経済学会 正会員, 日本家政学会 正会員,
日本フードシステム学会 正会員, 東北農業経済学会 正会員

・ 学外委員会

上毛新聞 オピニオン 21 委員

・ マスコミ広報

上毛新聞 視点「食品ロス削減に行動を SDGs と世界の食料」(2021/12/31)
上毛新聞 視点「身近な「なぜ」に迫る 統計資料の面白さ」(2022/02/24)

・ その他

アグリビジネス創出フェア 2021 ポスター出展「食料・環境・資料・フェアビジネス」東京.
(2021/11/24-26)

6. 受賞者リスト

| 受賞者名 | 受賞年月 | 受賞内容 |
|-------|---------|---|
| 橋田 庸一 | 2021年4月 | 日本作物学会 第251回講演会優秀発表賞 受賞演題：「コンニャクのグルコマンナン代謝関連遺伝子の網羅的解析」 |
| 大政 謙次 | 2021年7月 | 国立環境研究所名誉研究員 |

7. 外部との連携協定

7.1. 群馬県食品工業協会との相互連携協力の推進に係る協定

令和3年4月8日に本学において、本学と群馬県食品工業協会との間で相互連携協力の推進に係る協定書調印式が行われました。協定は、本学の須藤賢一学長と群馬県食品工業協会の市川豊行会長が、協定書に交互に署名することで締結されました。この協定は、群馬県の食品工業等の振興及び地域社会の活性化と地域で活躍できる次世代型人材育成を目的としています。群馬県食品工業協会には、次世代人材育成のために、本学学生のインターンシップや授業などにご協力いただき、また、協会の参加企業と共同で、研究や地域活性化のイベント企画等を行っていただければと考えています。そして、本学で学んだ学生が食品工業等の分野で活躍し、地域の発展に貢献していくことを期待しています。

| 高崎健康福祉大学と群馬県食品工業協会との 相互連携協力の推進に係る協定書 | |
|---|--|
| <p>高崎健康福祉大学（以下「甲」という）と、群馬県食品工業協会（以下「乙」という）とは、相互の連携・協力すること合意し、相互連携協力の推進に係る協定書を次のとおり（以下「本協定」という）締結する。</p> <p>（定義） 第1条 本協定において、乙とは、群馬県食品工業協会を構成する会員をいう。</p> <p>（目的） 第2条 本協定は、群馬県の食品工業等の振興及び地域社会の活性化と地域社会で活躍できる次世代型人材の育成を基本活動テーマとして、甲と乙が相互に協力可能な食品工業、地域社会等の分野における連携を深めることを目的とする。</p> <p>（連携・協力事項） 第3条 本協定は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携・協力をする。 ① 群馬県の食品工業振興・発展及び地域の活性化等に関すること ② 教育及び次世代型人材育成に関すること ③ その他、本協定の目的を達成するために必要と認めて合意した事項に関すること 2 前項に規定する事項の具体的な内容については、甲と乙が協議して定めるものとする。</p> <p>（協議） 第4条 本協定の円滑な運用を図るため、毎年度定期的な協議を行うものとする。 2 甲と乙の連携担当部署（事務局）は、日常より情報の交換、連携を行うものとする。</p> <p>（経費） 第5条 甲と乙が連携・協力して行う事業に関する経費については、甲と乙が協議して定めるものとする。</p> <p>（協定の見直し） 第6条 本協定の見直しは、甲又は乙のどちらかから、協定内容の見直しの申し出があった場合、甲と乙で協議して行うものとする。</p> | <p>（協定の解釈） 第7条 本協定の解釈に疑義が発生した場合又は本協定に定めのない事項が発生した場合は、甲と乙が協議して解決する。</p> <p>（反社会的勢力の排除） 第8条 連携・協力事項の実施にあたっては、反社会的勢力の排除及びコンプライアンスの遵守のほか、社会的責任を果たすための体制を整え、これを相互に尊重し行動する。</p> <p>（秘密保持） 第9条 甲と乙とは、連携・協力事項の実施にあたっては、守秘義務のある資料と情報及び個人情報等については、相手方の事前の書面による同意書なしに第三者に開示してはならない。</p> <p>（有効期限） 第10条 本協定の有効期限は、協定締結日から1年とする 2 期間満了の日から30日前までに甲又は乙から協定を終了させる意思表示がない場合は、期間満了の翌日から1年間の自動更新とし、以後同様とする。</p> <p>（署名） 第11条 本協定締結を証するための証として、本協定書を2通作成し、甲及び乙がそれぞれ署名し、それぞれ1通を保管する。 なお、本協定書の署名における乙については、代表として群馬県食品工業協会の会長が行うものとする。</p> <p style="text-align: center;">令和3年4月1日</p> <p>甲 群馬県高崎市中大須町37番地1号 高崎健康福祉大学 学長 須藤賢一</p> <p>乙 群馬県前橋市亀里町884番地1 群馬県食品工業協会 会長 市川豊行</p> |



協定書調印式の様子

7.2. 千葉大学との教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定

令和3年7月1日に、国立大学法人千葉大学大学院園芸学研究院・園芸学研究科・園芸学部及び環境健康フィールド科学センターと本学農学部の間で教育・研究・社会貢献活動に関する包括的な連携を締結しました。本連携は、両校の教育・研究活動全般に関わる交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の進展と地域社会の発展に資することを目的としています。

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定書</p> <p>国立大学法人千葉大学大学院園芸学研究院・園芸学研究科・園芸学部及び環境健康フィールド科学センターと高崎健康福祉大学農学部（以下、「両校」という。）は、教育・研究・社会貢献活動に関する包括的な連携について、以下のとおり協定する。</p> <p>（目的） 第1条 両校は、教育・研究活動全般に係る交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の進展と地域社会の発展に資することを目的として本包括協定を締結する。</p> <p>（連携項目） 第2条 前条の目的を達成するために行う連携項目は次のとおりとする。 （1）教員、研究者及び学生の交流 （2）共同研究活動 （3）研究施設、設備の相互利用 （4）研究資料、刊行物及び研究情報の交換 （5）社会貢献活動 （6）その他、両校が合意した事項 2 前項の連携に具体的な事項については、別途協議する。</p> <p>（管理責任） 第3条 本連携の具体的な実施に当たっては、両校の部長が管理責任を負う。</p> <p>（秘密保持等） 第4条 両校の秘密保持義務の扱い並びに本連携から生じる知的財産等の成果物の取扱い及び本連携から生じる学術情報の発表については、別途定める取決めに従うものとする。</p> <p>（協議） 第5条 本協定に定めのない事項については、両校は誠実に協議のうえその都度決定する。</p> <p>（有効期限） 第6条 本協定の有効期間は、締結の日から令和4年3月31日までとする。但し、両校のいずれからも協定の終了または見直し等の申出がない場合、本協定は、更に1年間延長されるものとし、その後も同様の取扱いとする。</p> | <p>本協定の締結を証するため、協定書2通を作成し、各々1通を保有する。</p> <p>令和3年7月1日</p> <p>千葉県松戸市松戸648</p> <p>国立大学法人千葉大学園芸学研究院長</p> <p>松岡 延 浩</p> <p>千葉県柏市柏の葉6-2-1</p> <p>国立大学法人千葉大学環境健康フィールド科学センター長</p> <p>高垣 美智子</p> <p>群馬県高崎市中大類町37-1</p> <p>高崎健康福祉大学農学部長</p> <p>大政 謙 次</p> |
|--|---|

7.3. 伊勢崎興陽高等学校との高大連携事業に関する協定

令和4年3月16日に高崎健康福祉大学農学部と群馬県立伊勢崎興陽高等学校との高大連携事業に関する連携協定の調印式が執り行われました。本協定は高校生が自らの視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学が求める学生像及び大学の教育内容への理解を深めるために、かつ高校教育・大学教育の活性化を図ることを目的としています。



協定書調印式の様子

8. 健大通信

学科
Topics

08

農学インターンシップ事前説明会
生物生産学科 教授 松岡 寛樹

農学部では、3年次に「農学インターンシップ」を開講します。本講座は食と農に関する実践活動を行い、実学的な専門知識や技術を学修することを目的としています。農学部では開設後初の3年生を迎えるため、2年次の12月から月に一回のペースで就職講座を兼ねてインターンシップに関する事前説明会を、連携協定を結ぶ各団体の協力を得ながら下記のとおり開催しました。

第1回 インターンシップとは（キャリアサポートセンター）
第2回 農業関係試験研究機関実務実習学生の受入れについて（群馬県農政部）
第3回 JAグループ群馬による実務実習学生の受入れについて（JA群馬中央会）
第4回 群馬県食品工業協会加盟企業の実務実習学生の受入れについて

コロナ禍の中での開催ということもあり、各回ともYouTubeやTeamsなどでライブ配信を行い、学生全員に共有できる環境を整えました。実際には60〜80人の学生が当日参加してくれました。また、講演後には学生からの質問もあり、真剣に自身の進路を模索している様子が窺えました。




▲第2回ならびに第3回事前説明会

実習運営委員会では学生の学びを応援できるよう、農学インターンシップの受入れ先拡大と実施に向けて調整を行っています。皆様方の御理解・御協力頂けるよう、よろしくお願ひします。

健大通信 2021年4月号 Vol. 35

学科
Topics

08

農学部最上級生に意識高揚を図る「就職対策講座」の開催
生物生産学科 キャリアサポート委員 教授 岡田 早苗

農学部生物生産学科は平成31年4月から新入生を迎え入れ、3年目の令和3年4月には最上級生が3年生となりました。3年生後期からは就職活動を本格化させなければなりません。新設学部であることから、3年生が先輩の就活の活動状況を目の当たりにすることがないことから、「就職をする」という意識をしっかりと抱いているかどうか、教員にとつて一番の心配ごとでした。また学生たちが就職に対する意識をどこまで持っているかについても知りたいと期待していました。

そこで、最上級生が2年生の時に就職への意識高揚を図るべく、「第一回就活ガイダンス」を令和2年10月に行い、学生たちの就職に対するアンケート調査を実施すると同時に、本格的に就職対策を始めるように促しました。このイベントは令和3年度以降も継続していく予定です。

令和3年6月には、企業や公的機関に就職し大学卒業して間もない就活経験者4氏から、経験談などのお話を聞く「就職対策講座」を複数回開催いたしました。また、就職活動に向けて、民間就職支援機関からの公務員対策講座やSPI対策講座など実施し、さらにキャリアサポートセンターにおいて3年生前期の段階から個人面談や就職講座を実施していただくなどを通じ

て、キャリアサポートセンターの協力を得ながら学生への就職へ向けての指導を継続してきました。

就職に関するアンケート調査

～1. 現時点で希望する仕事について～

設問(4) 今、一番働きたいと思う「業界(業種)」を、第1～3希望までそれぞれ1つ選んでください。(n=97)



【第1希望】 【第2希望】 【第3希望】



▲就職対策講座(令和3年6月24日) 招待講師の話を聴く3年生

健大通信 2021年11月号 Vol. 36

大学院農学研究科 博士前期課程(2年)と博士後期課程(3年)の 同時開設について

平成31年4月の農学部開設から3年が経過しました。この間、群馬県やJAグループ群馬、群馬県食品工業協会、千葉大学、地元企業などと相互連携協定を締結し、活発な教育・研究活動を行ってきました。

この度、学部から大学院までの一貫した教育・研究と、地域に貢献するための社会人を対象とした大学院での教育・研究を実施するために、学部の完成年度よりも一年早く、大学院農学研究科生物生産学専攻、博士前期課程(2年)及び博士後期課程(3年)の同時設置の申請を文部科学省に行い、令和4年4月の開設が認可されました。

大学院農学研究科では、「人類の健康と福祉に貢献する」という本学建学の精神のもと、食と農の基礎から生産・加工に関わる先端技術、さらには、社会実装にいたるまで、幅広く学ぶ本学農学部の理念を一層拡充し、より高度で先端的な研究を実施しつつ、高度専門職業人や研究者を養成していきたいと考えています。このため、今後、学部からの進学希望者は勿論のこと、研究・開発に携わる社会人の方々も積極的に迎え入れることができると考えています。

大学院組織や教育・研究、及び入試等の詳細については、逐次本学ホームページに掲載します。また、新たに、各研究室のホームページも開設しますので、参考にして頂ければ幸いです。



9. 大学評議員会報告

第1回評議員会報告（2021/05/21）

(1) 群馬県食品工業協会との相互連携協力の推進に係る協定の締結（7.1.の連携協定参照）

令和3年4月8日に本学において、本学と群馬県食品工業協会との間で相互連携協力の推進に係る協定書調印式が行われました。協定は、本学の須藤賢一学長と群馬県食品工業協会の市川豊行会長が、協定書に交互に署名することで締結されました。この協定は、群馬県の食品工業等の振興及び地域社会の活性化と地域で活躍できる次世代型人材育成を目的としています。群馬県食品工業協会には、次世代人材育成のために、本学学生のインターンシップや授業などにご協力いただき、また、協会の参加企業と共同で、研究や地域活性化のイベント企画等を行っていければと考えています。そして、本学で学んだ学生が食品工業等の分野で活躍し、地域の発展に貢献していくことを期待しています。

(2) JAグループ群馬より学生へ県産米が贈られました

令和3年4月19日（月）に本学において、「コロナに負けるな！群馬の農業応援団参上！！」と題して県産米「利根きりり」贈呈式が行われました。JAグループ群馬からはJA群馬中央会 唐澤会長、田村専務、高橋参事、本学からは須藤学長、大政農学部長、農学部3年生4名が出席しました。

本学と次世代型人材育成や地域活性化などに関する連携協定を締結しているJAグループ群馬から、新型コロナウイルス感染症の終息が見えず不安を抱えているなか、新学期を迎える大学生の食生活を応援する取組みとして、学生へ群馬県産 無洗米 コシヒカリ「利根きりり」が贈呈されました。学生からは、「コロナ禍でバイトが思うようにできないので、大変助かります。」とのコメントがありました。



贈呈式の様子

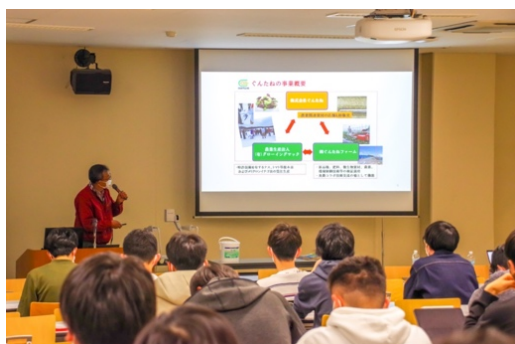
(3) 2021年度 農学インターンシップ企業説明会

農学部では、食と農に関する実践活動の場を主体的に選択し、就業体験を通じて、各分野における実学的な専門知識や技術を修得することを目的として、「農学インターンシップ」(3年生・選択科目)を開講している。そのため、2021年5月13日(木)および5月20日(木)に3年生を対象とした企業説明会を下記のとおり実施した。

| 説明会回数 | 日時・場所 | 内 容 |
|-------|---|---|
| 第5回 | 2021年5月13日(木) 14:45~16:15 7号館105講義室 | インターンシップ受け入れ予定企業による会社概要、業界、インターンシップ内容の説明。 《株式会社ぐんたねファーム、カネコ種苗株式会社》 |
| 第6回 | 2021年5月20日(木) 14:45~17:15 7号館105講義室 | インターンシップ受け入れ予定企業による会社概要、業界、インターンシップ内容の説明。 《有限会社ワタミファーム、株式会社たむらや、グリーンリーフ株式会社、雪国アグリ株式会社》 |

・農学インターンシップ企業説明会は、インターンシップの基礎知識、就職活動のこころえ、業界・企業紹介、実際のインターンシップ内容などについて、株式会社ぐんたねファーム、カネコ種苗株式会社、有限会社ワタミファーム、株式会社たむらや、グリーンリーフ株式会社、雪国アグリ株式会社から講師を招請し、説明が行われた。

・当日は70名(5月13日)、74名(5月20日)が参加した。



農学インターンシップ企業説明会の様子

(4) 高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト 2021 の実施

「高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト 2021」を実施するため、募集要項を作成しました。

| 高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト 2021 募集要項 | |
|--|---|
| <p>1. 目的 次世代を担う高校生を対象として、日本の社会や国際社会に関わる問題への関心や知見を深めるため、探求的な学びの場を提供するとともに、優秀作品に奨学金を授与して顕彰することを目的としています。</p> <p>2. 応募資格 高等学校および中等教育学校後期課程に在籍する生徒による未発表作品に限ります(連名やグループでの応募は認めません)。</p> <p>3. 論文テーマ 「私たちの時代の食料・環境・資源マネジメントを探る」 食料、環境、資源の3つのキーワードのうち、少なくとも2つに言及してください。 地域社会、あるいは国際社会の視点を交えて論じてください。</p> <p>4. 表彰・副賞 1)学長賞1件:賞状、副賞(奨学金10万円) 2)優秀賞2件:賞状、副賞(奨学金3万円) 3)学校賞:10点以上の論文を応募した学校に対して賞状、副賞(図書カード1万円分)</p> <p>学校賞の受賞は、学長賞・優秀賞の受賞を妨げるものではありません。 学長賞の表彰式を令和3年10月23・24日開催予定の本学大学祭(森羅祭)で行い、受賞者を表彰式に招待します。同行者1名を含む旅費(本学旅費規程)として10万円を上記に本学が負担します(COVID-19 感染拡大防止のため、本学大学祭が中止された場合は、賞状と副賞を受賞者に送付します)。</p> <p>5. 応募方法 応募様式(本学ホームページからダウンロード)の指示に従って、Microsoft Word ファイルか PDF ファイルで論文を作成し、電子メール、または郵便で送信/送付してください。論文は、2,000 字以内で作成してください。応募は無料です。</p> <p>(1)電子メールの場合 必要事項を記入した応募票(本学ホームページからダウンロード)とともに、添付ファイルとして次の送信先に電子メールを送信してください。その際、件名は「高校生論文コンテスト応募」としてください。 送信先:nogaku-ronbun@takasaki-u.ac.jp</p> <p>(2)郵便の場合 必要事項を記入した応募票(本学ホームページからダウンロード)を同封して、次の宛先に送付してください。郵送料など送付にかかる費用はご負担ください。また、応募論文はお返しできません。 宛先:〒370-0033 群馬県高崎市中大通り 54 番地 高崎健康福祉大学農学部 高校生論文コンテスト事務局</p> | <p>学校賞(1校10点以上)に応募する場合は所属学校で一括して、上記(1)または(2)の方法で送信/送付してください。その際、学校賞応募票(本学ホームページからダウンロード)に必要事項を記入し、添付または同封してください。</p> <p>6. 募集期間 令和3年7月1日(木)～9月3日(金) (1)電子メールの場合は令和3年9月3日(金)17時まで受け付けます。 (2)郵便の場合は令和3年9月3日(金)必着です。</p> <p>7. 審査方法 学内審査委員5名、学外審査委員(本学客員教員)3名からなる高崎健康福祉大学高校生論文コンテスト審査委員会(委員長:須藤賢一学長)において厳正かつ公平に審査し、審査結果を令和3年10月4日(月)までに受賞者へ連絡するとともに、本学ホームページに掲載します。</p> <p>8. 審査のポイント 高校生らしいユニークな視点はあるか 可能な範囲で、記述内容を裏付けるためのデータ・文献・資料等の検索や調査が行われているか 論理的に主張が述べられているか</p> <p>9. 問い合わせ先 高崎健康福祉大学農学部 高校生論文コンテスト事務局 問い合わせは電子メールで受け付けます(nogaku-ronbun@takasaki-u.ac.jp)。</p> <p>10. 主催・後援 主催:高崎健康福祉大学農学部アグリビジネス研究室 後援:上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA(他 申請中)</p> <p>11. 著作権・個人情報の取り扱い (1)著作権について 応募論文の著作権は本学に帰属します。また、受賞論文の要約を受賞者とともに本学ホームページや本論文コンテストの案内に掲載することがあります。</p> <p>(2)個人情報について 個人情報は、論文の審査・結果発表など本募集に関わる目的以外には利用しません。受賞者の氏名、学校名、論文タイトル、学校賞の学校名は、結果発表など本募集に関わる目的で本学ホームページ等に掲載・公表されます。表彰式で撮影した写真および受賞者の写真は、本論文コンテストの広報に関わる目的で本学ホームページや本論文コンテストの案内等に掲載される場合があります。また、表彰式はマスメディアで取材・報道されることがあります。</p> |

高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト 2021 の募集要項

第2回評議員会報告 (2021/07/16)

(1) 高崎健康福祉大学パートナーシップ・プログラムの実施

6月1日、7日、8日の3日間をかけて、高崎健康福祉大学高崎高等学校から高校生5名が参加し、パートナーシップ・プログラムが実施されました。このプログラムは高大連携事業であり、高校生が大学での授業・実習を体験し、大学教員から実際に学ぶことによって、大学での学びを知り、今後のキャリアを考えるきっかけを作るものです。

■ 6月1日

講義室では、日本におけるイチゴ品種誕生の歴史や品種の数について知ってもらいました。附属農場では、コンピュータ制御されたスマートグリーンハウスや、13台のカメラによる野菜の成長の記録・解析システムを視察した上で、グリーンハウス内で栽培されているイチゴを使ってイチゴの交配を行いました。最後にいちご狩りをする事で、収穫の喜びも体験してもらいました。

■ 6月7日、8日

10号館5階の研究室にて、農学部生物生産学科のコースに関する説明を受けた後、ス

マート農業とドローンを活用した研究、ドローン飛行時のルール、ドローンの操縦法を学びました。またパソコン室にて、ドローンのフライトシミュレータを体験し、ドローンの操縦に慣れた後、実際にドローンの飛行を体験しました。



パートナーシップ・プログラムの様子

(2) 日本農民新聞での農学部・生物生産学科の紹介記事

日本農民新聞（6月15日）の「農業系教育機関のいま」の欄にて、農学部生物生産学科が紹介されました。記事では、本学農学部のこれまでの歩み、理念や教育方針、学部の現状やその特色などの詳細が紹介され、さらに今後に向けての展開が示されています。

(3) 千葉大学との教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定の締結（7.2.の連携協定参照）

令和3年7月1日に、国立大学法人千葉大学大学院園芸学研究院・園芸学研究科・園芸学部及び環境健康フィールド科学センターと本学農学部の間で教育・研究・社会貢献活動に関する包括的な連携を締結しました。本連携は、両校の教育・研究活動全般に関わる交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の進展と地域社会の発展に資することを目的としています。

(4) 令和3年度 農学部キャリアサポート委員会活動

下記のとおり、4回の就職講座および2回の就職対策講座を実施した。

就職講座①

日時：5月27日（木）14:45～15:30

場所：10号館3階学生実験室

内容：基礎マナー講座（電話のかけ方・メールの書き方）

講師：キャリアサポートセンター（CSC）キャリアカウンセラー 白石さやか氏

就職講座②

日時：6月10日（木）14:45～16:15

場所：10号館3階学生実験室

内容：リクナビ2023を活用した就活ガイダンス

講師：株式会社リクルートキャリア 鶴菌梨沙氏

就職対策講座①

日時：6月17日（木）14:45～16:00

会場：10号館3階学生実験室

内容：就職活動体験談、現在の仕事紹介など

講師：佐々木健太氏（山形県庁）【Zoom】

阿部雄大氏（カネコ種苗株式会社）

就職対策講座②

日時：6月24日（木）14:45～16:00

会場：10号館3階学生実験室

内容：就職活動体験談、現在の仕事紹介など

講師：須永晃多氏（岩下食品株式会社）

辻萌氏（株式会社ゼンショーホールディングス）

就職講座③

日時：7月8日（木）14:45～16:15

場所：10号館3階学生実験室

内容：キャリアデザインツール「適性診断 MATCH plus」の活用

講師：株式会社マイナビ 中馬幸紀氏

就職講座④

日時：7月15日（木）14:45～16:15

場所：10号館3階学生実験室

内容：エントリーシートの書き方と対策

講師：キャリアサポートセンター（CSC）次長 湯本誠一氏



就職対策講座（6月24日）の様子

第3回評議員会報告（2021/10/15）

（1）高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト2021 審査結果（第一報）

令和3（2021）年7月1日から9月3日までを募集期間として、「高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト2021」を開催し、全国から213点のご応募をいただきました。

たくさんのご応募ありがとうございました。この度、審査委員会による厳正な審査を行い、下記のとおり各賞を決定いたしました。

◆学長賞◆

齊藤 衣純（神奈川県立横浜翠嵐高等学校 3年）

「世界人口100億人のタンパク質を確保する方法についての考察」

◆優秀賞◆

柳澤 明日美（群馬県立中央中等教育学校 5年）

「米の消毒液を世界へ ～コロナ禍における加工品の提案～」

渡邊 朝香（高崎健康福祉大学高崎高等学校 1年）

「ゲームで学ぶ環境問題」

◆学校賞◆（五十音順）

群馬県立勢多農林高等学校

群馬県立中央中等教育学校

高崎健康福祉大学高崎高等学校

講評は、第二報でお知らせします。

令和3（2021）年10月4日 高崎健康福祉大学農学部 アグリビジネス研究室

第4回評議員会報告（2021/12/09）

（1）令和3年度第1回農学部セミナーの開催

昨年度に引き続き、群馬県農政部副部長を招へいし、群馬県農業の紹介と群馬県職員採用についての説明会を実施しました。また、本セミナーの共同主催者であるキャリアサポートセンター（CSC）からは、CSCの紹介が行われ、早い段階からのCSCの利用が促されました。

日時：2021年11月11日（木）16：30～18：00

場所：10号館201講義室

講師 群馬県農政部副部長 倉澤 政則氏

講演題目「群馬の農業を応援してみませんか」

- ・群馬県農業の強み・特徴
- ・本県の農業構造
- ・本県農業の課題
- ・群馬県農政部の新たな挑戦
- ・農業技師のお仕事
- ・採用試験について

参加者 学生30名、教職員10名、計40名



講師の倉澤氏



CSCの説明をする小田氏

（2）農学部教職員向け就職講座

2021年11月11日（木）に10号館202講義室で、農学部教職員向け就職講座を開催しました。本講座は、株式会社マイナビから講師をお招きして、「コロナ禍での就職活動と学生支援」と題して、現状と23年卒新卒採用見通し、オンライン選考のポイント、学生支援についてなど、ご講演をいただきました。当日は、24名の教職員が参加し、活発な質疑応答が行われました。



当日の講座の様子（2021年11月11日）

(3) 高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト2021 表彰式

高校生を対象とした本論文コンテストでは、「私たちの時代の食料・環境・資源マネジメントを探る」というテーマで論文を募集しましたが、おかげさまで全国から213件の応募がありました。この213件の応募論文を本論文コンテスト審査委員会において厳正かつ公平に審査した結果、学長賞1件、優秀賞2件、学校賞3件が選考され、本年10月4日（月）に審査結果を本学ホームページで公表しました。

表彰式は本学大学祭（藤龍祭）で行う予定でしたが、大学祭（藤龍祭）がオンライン配信となったため、本学での表彰式は中止しました。代わりに、須藤賢一学長、石田朋靖副学長、農学部アグリビジネス研究室教員で、受賞者の高校を訪問し、各高校で表彰式を行いました。

本コンテストの結果は、後援団体である上毛新聞社の2021年11月12日（金）朝刊（21面）にも掲載されました。



◆学長賞◆

齊藤 衣純

（神奈川県立横浜翠嵐高等学校3年）

「世界人口100億人のタンパク質を確保する方法についての考察」



◆優秀賞◆

柳澤 明日美

(群馬県立中央中等教育学校 5年)

「米の消毒液を世界へ

—コロナ禍における加工品の提案—」



◆優秀賞◆

渡邊 朝香

(高崎健康福祉大学高崎高等学校 1年)

「ゲームで学ぶ環境問題」

(4) 農学部保護者会を開催しました

2021年11月13日(土)に農学部の保護者会を開催しました。今年度の保護者会は対面とオンラインの併用で行い、対面の保護者会には42名の保護者の方にご参加いただきました。また、オンラインの動画は134回の視聴がありました。保護者会の内容として、新型コロナウイルス感染症に対する本学の取り組みや教育課程の内容、就職活動のサポートなどについてご説明しました。

保護者会終了後は希望者を対象にキャンパス見学を行い、35名の保護者の方が学生実験室や農場を見学されました。見学先では農学部教員による設備や実習の説明を行いました。

また更に、希望される方を対象にアドバイザー教員による個別相談を行いました。個別相談には、対面で16名、オンラインで3名の参加がありました。



松岡教授の教育課程説明の様子



岡部准教授の農場説明の様子

(5) 令和3年度第3回農学部セミナーの開催

第3回は、農林水産省大臣官房 広報評価課 情報分析室の内田剛氏に、令和2年度食料・農業・農村白書の概要を説明していただいた。

日時：2021年11月25日（木）16:30～18:00

場所：10号館2階201号室

講師：農林水産省・大臣官房 広報評価課 情報分析室 内田 剛氏 氏

講演題目「令和2年度食料・農業・農村白書の説明」

参加者数：学生70名、教員10名、合計80名



農学部セミナーの様子

第5回評議員会報告（2022/02/18）

(1) 群馬県との共同研究に向けた交流会（第3回）

本学と群馬県との連携協定「農学振興及び6次産業化推進に係る連携協定」にもとづき、2021年12月16日の午後に、群馬県と高崎健康福祉大学の共同研究に向けた交流会（第3回）が開催されました。

会のはじめに群馬県農政課の小泉研究調整主監と本学大政農学部長より挨拶がありまし

た。本学の清水庸教授より、「地球温暖化および気候変化シナリオに関わるトピックの紹介」についての話題提供があり、加藤寛准教授より、「イチゴ病害を中心とした迅速診断技術の開発」、松岡寛樹教授より「群馬県産ダイコンを用いたタクアン漬けのメタボローム解析と抗高血圧効果」についての研究紹介がありました。群馬県からも農業技術センター山田浩之主任より「嬭恋村キャベツ圃場の土壌流亡対策」、池田健太郎係長より「ドローンを活用した病害の発生生態解明」、そして五関香澄技師より「ウメ「群馬U6号」の加工品開発」と題して、発表がありました。各発表について活発な質疑応答をおこない、共同研究を進めていくための情報交換の場となりました。

参加者数：群馬県（24名：農業技術センター、ぐんまブランド推進課、農政課）、農学部教員（13名）、農学部研究員・学生等（5名）、合計42名



研究紹介を行う加藤准教授と農業技術センター五関技師

(2) 就職支援活動報告

【農学部就職講座】

2022年1月7日（金）に10号館203講義室で、農学部就職講座を開催しました。今回の講座は、1月11日（火）10時にマイナビのプレエントリー開始（予約リスト利用開始）となるのにあわせて、直前準備についてマイナビ担当者様からお話いただきました。当日は、62名の学生が参加しました。

【学内企業説明会】

- ・群馬農協チキンフーズ株式会社

2022年1月28日（金）に10号館3階基礎実験室で、群馬農協チキンフーズ株式会社の代表取締役社長 狩野和彦様らをお招きして、企業説明会を開催しました。会社概要や企業理念、仕事内容、採用情報などについて詳しくお話していただき、全体説明の後には活発な質疑応答が行われました。当日は、17名の学生が参加しました。

- ・日本ピュアフード株式会社

2022年2月9日（水）に10号館201講義室で、ニッポンハムグループの日本ピュアフード株式会社の企業説明会をオンライン開催しました。会社概要や事業内容、採用情報などについて、人事担当者の方から詳しくお話していただき、全体説明の後には活発な質疑応答が行われました。当日は、26名の学生が参加しました。



当日の講座の様子（2022年1月7日）



当日の説明会の様子（2022年1月28日）



当日の説明会の様子（2022年2月9日）

(3) 令和3年度第4・5回農学部セミナーの開催

第4回と第5回農学部セミナーは下記のとおり、同日に開催され、ゲノム編集技術の動向等を紹介していただきました。

第4回農学部セミナー

日時：2022年1月17日（月）15:20～16:20

場所：10号館204講義室

講師：東京工業大学生命理工学院 教授 刑部 祐里子 氏

講演題目「新規ゲノム編集技術の開発と応用」

参加者数：学生55名、教員5名、合計60名

第5回農学部セミナー

日時：2022年1月17日（月）16:30～17:30

場所：10号館201講義室

講師：アクプランタ株式会社 代表取締役

・東京大学大学院農学生命科学研究科 特任准教授（兼任）金 鍾明 氏

講演題目「基礎研究成果を社会実装して世界を救う！？ みどりの地球を守るために…」

参加者数：学生 25 名、教員 5 名、合計 30 名



第 5 回農学セミナーの様子

(4) 令和 4 年度生の入学前教育スクーリングの実施

農学部生物生産学科では、総合型選抜・学校推薦型選抜の合格者 43 名に対して、通信添削制の入学前教育プログラムを実施しています（3 月末まで）。

これに先立ち、入学前教育の趣旨説明と受講生同士の交流のため、スクーリングを Zoom にて催しました。後日 YouTube よりオンデマンド配信して、当日不参加の生徒へのフォローも行いました。事後アンケートの結果、受講生の不安解消やモチベーション向上に寄与したと考えられます。

| | I 期 | II 期 |
|------|--|-----------------------------------|
| 日時 | 令和 3 年 12 月 19 日（日） 14:00～15:00 | 令和 4 年 1 月 22 日（土） 14:00～15:00 |
| 対象者 | ・ 総合型選抜 I 期合格者 ・ 学校推薦型選抜合格者 | ・ 総合型選抜 II 期合格者 |
| 参加人数 | ライブ（当日）：24 名 オンデマンド：9 名 | ライブ（当日）：4 名 オンデマンド：集計中 |
| 当日内容 | 学部長の挨拶、学年担任の挨拶、事前質問への回答、入学前教育の趣旨説明、受講生自己紹介 | |

事後アンケート：入学前教育の説明を聴いての感想や質問を、書いてください。

（先着 10 件を掲載、質問や重複を除く）

- 分かりやすかった
- 入学に向けて勉強をし、入学後も良いスタートをきれるよう頑張りたいと思いまし

た。

- 想像よりも入学前課題が多く、内容も単純なものではなかったため、高校との違いを早くも感じた
- zoom に慣れていないのでとても操作が難しかったです。
- 資料だけだと不安だったから、説明があつてよかったです。
- 高校で学んだことは、必ず大学の授業に繋がるので、苦手科目の復習などにも取り組もうと思いました。また、大学でのレポート時つまづかないように、意識してノート作りをしようと思いました。
- 入学前教育の説明がとてもよくわかりやすかったです。
- 入学前教育のやる意味やテストを返されたあとの勉強方法なども詳しく説明をしていただいたため、とてもやる気になりました。
- わかりやすく、これから何をすればいいのかわかった。
- 入学前教育の課題について分からない事がありましたが、説明がとても分かりやすかったので理解することが出来ました。



学年担任の教員による挨拶の様子（左：石岡准教授、右：藤本助教）

(5) 2021 年度 農学インターンシップ委員会活動報告書

本学農学部では、食と農に関する実践活動の場を主体的に選択し、就業体験を通じて、各分野における実学的な専門知識や技術を修得することを目的として、「農学インターンシップ」(3年生・選択科目)を開講する。本年度は、コロナ禍であるにも関わらず、多くの団体の協力のもと実施することが出来た。来年度に向けて、2年生を対象とした事前説明会を下記のとおり実施した。

| 説明会 | 日時・場所 | 内容 |
|-----|-------------------------------------|--|
| 第1回 | 2020年12月8日(水) 16:30~18:30、201講義室 | インターンシップの概要について、今後の実習スケジュール、受け入れ可能な実習先など《キャリアサポートセンター、農学インターンシップ実習運営委員会》 |

| | | |
|-----|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第2回 | 2021年1月13日（木） 13:00～14:00、201講義室 | 農業関係試験研究機関実務実習学生の受け入れについて《群馬県農政部》 |
| 第3回 | 2021年2月15日（火） 10:45～12:00、201講義室 | JA グループ群馬による実務実習学生の受け入れについて《JAグループ群馬》 |

第1回の事前説明会は、インターンシップの全般的な概要についてキャリアサポートセンターから説明が行われ、農学インターンシップの目的や今後のスケジュール、現在予定している受け入れ可能な実習先などについて、実習運営委員会の担当教員から説明が行われた。

第2回の事前説明会は、本学と連携協定を結ぶ群馬県の協力を得て、農業関係試験研究機関（農業技術センター、蚕糸技術センター、水産試験場、畜産試験場）の概要と、実務実習学生の受け入れについて、群馬県農政部農政課技術調整係から講師を招請し、説明が行われた。

第3回の事前説明会は、本学と相互連携協力の推進に係る協定を結ぶJA グループ群馬の協力を得て、JA グループ群馬の組織概要と、学生インターンシップの概要について、JA 群馬中央会から講師を招請し、説明が行われた。各回とも、25～70名が当日参加した。

第4回の事前説明会は、2022年3月8日（火）予定。群馬県食品工業協会から講師を招請し、関連団体・企業への学生インターンシップ受け入れについての説明を予定している。



事前説明会の様子

(6) 日本農業気象学会公開シンポジウムのお知らせ

2022年3月23日に開催される日本農業気象学会での公開シンポジウム「気候変動とその対策～未来へのアプローチ～」(オンライン配信)について紹介された。

シンポジウムオーガナイザー：大政謙次（高崎健康福祉大学）・松岡延浩（千葉大学大学院園芸学研究院）

| | | | | |
|--|----------|----------|---|--|
| Web 開催 | 事前 申込 | 参加 無料 |  | 日本農業気象学会公開シンポジウム 気候変動とその対策～未来へのアプローチ |
| 2022/3/23 (水) 14:50～17:40 | | | | |
| 14:50～15:00 閉会挨拶 大政謙次 (高崎健康福祉大学農学部長) 司会 大政謙次・清水 庸(高崎健康福祉大学農学部教授) | | | | |
| 15:00～15:30 気候変動研究～緩和と適応に向けたメッセージ～ 国立環境研究所理事長 木本昌秀 | | | | |
| 15:30～16:00 生態系炭素収支の環境科学的評価とゼロエミッション 千葉大学学術研究・イノベーション推進機構長・研究担当理事 藤江幸一 | | | | |
| 16:00～16:30 みどりの食料システム戦略～食料・農林水産業の 生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～ 農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課長 秋葉 一彦 | | | | |
| 16:30～17:00 地域農業の事例から～群馬県の取組み：果樹における 気象変動の影響と対策～ 群馬県農業技術センター主任 星野智昭 | | | | |
| 17:00～17:30 総合討論 | | | | |
| 17:30～17:40 閉会挨拶 松岡延浩 (千葉大学大学院園芸学研究院長) | | | | |
| 開催方法：オンライン配信 (Zoom)・定員500名 (※切：3月16日) 参加希望者は下記登録フォームから参加登録をお願いします。 (日本農業気象学会2022年全国大会/ISAM2022参加者は登録不要) 参加登録フォーム https://forms.gle/xWPW3ubUJ1mErcf7A 問い合わせ：edu-sami2022(at)takasaki-u.ac.jp (at→@) | | | | |

公開シンポジウムのポスター

第6回評議員会報告 (2022/03/25)

(1) 就職支援活動報告

群馬県食品工業協会にご協力いただき、群馬県内食品企業12社の合同企業説明会を開催しました。各企業の採用担当者の方にご来学いただき、企業説明と学生との個別面談を実施していただきました。当日は、29名の学生が参加し、積極的に質問する学生の姿が見られました。

【農学部企業説明会 (群馬県内食品企業)】

日時：2022年3月8日 (火) 14:00～16:30

場所：10号館3階・4階学生実験室

内容：群馬県内食品企業が参加する合同企業説明会

主催：高崎健康福祉大学農学部

| | |
|---------------------|----------------------|
| 1. (株) 大利根漬 | 7. (株) 旅がらす本舗清月堂 |
| 2. (株) クリチク | 8. ハナマルキ (株) 大利根工場 |
| 3. (有) グルメフレッシュ・フーズ | 9. 榛名酪農業協同組合連合会 |
| 4. サンヨー食品 (株) | 10. マック食品 (株) |
| 5. (株) 昭和食品 | 11. 美峰酒類 (株) |
| 6. (株) 新進 | 12. ロイヤルデリカ (株) 高崎本社 |



企業説明会の様子（2022年3月8日）

(2) 2022 春オープンキャンパス

3月12日（土）に2022春オープンキャンパスが開催されました。農学部には、高校生26名（+同伴者25名）の計51名にご参加いただきました。希望に分かれて参加する後半プログラム（パネル展示、個別相談、キャンパスツアー）には、個別相談が6名、農場見学が18名、ラボ見学が19名、延べ43名の高校生が参加されました。



模擬授業の様子



在学生によるコース紹介の様子

オープンキャンパスにおけるアンケート回答（自由記述欄）

生徒

- ・模擬授業で味覚を感じるしくみをくわしく知ることができておもしろかったです。また、実験室や実験機器がとても充実しており、魅力的でした。参加して良かったです！
- ・今日1日でたくさん事が知れて良かったです。とても楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。

保護者

- ・入試の説明については、多彩なため、今後よく読んで理解を深めたいと思います。早い時期にこういう機会が得られて良かったです。素晴らしい設備を見ることができ良かった。農業の幅広さを知り未来を感じることができた。
- ・また次回、今度は相談内容などまとめて、個別相談させていただきたいと思います。とてもわかりやすく楽しい時間をありがとうございました。学内の様子がよくわかりました。
- ・学生の方と直接お話できたことでより具体的にイメージできました。学科説明の他にキャンパスライフについての説明もあると良かったと思います。
- ・学生の方がいいいにお話してくださり、とても良かったです。
- ・図書館など、他の施設も見られる機会があると嬉しいです。

(3) 本学農学部と伊勢崎興陽高等学校との連携協定について（7.3.の連携協定参照）

令和4年3月16日（水）に高崎健康福祉大学農学部と群馬県立伊勢崎興陽高等学校との高大連携事業に関する連携協定の調印式が執り行われました。

本協定は高校生が自らの視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学が求める学生像及び大学の教育内容への理解を深めるために、かつ高校教育・大学教育の活性化を図ることを目的としています。

高大連携事業の内容

- (1) 本学教員による高校への講師派遣
- (2) 本学の授業および各種講座への生徒
- (3) 本学が実施する高大接続教育への興陽高校の支援
- (4) 相互が実施する課外活動などにおける交流活動の実施

調印式では本学 大政学部長、伊勢崎興陽高等学校 齋藤利昭校長から本連携協定によって、今後の教育活動におけるさらなる発展に期待を込めたあいさつが行われました。

本連携協定を通じて、高校生が自らの視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学が求める学生像及び大学の教育内容への理解を深めることで、高校教育・大学教育の活性化を図っていきます。なお、調印式の様子は、群馬テレビ（2022年3月16日）や上毛新聞（2022年3月17日）などのメディアで取り上げられました。

(4) インターンシップ実習報告会

農学インターンシップを受講した3年生が、ポスターで実習内容を発表した。同時に発表を収録し、オンラインで限定公開した。3年生の他、本学部教員、地元群馬県や熊本県の実習先の関係者、そして来年インターンシップを考えている2年生らが本学部初のインターンシップ実習の報告に耳を傾けた。発表した3年生も同級生の体験談を聞くことで、今後の就職活動の参考にした。

日時：2022年2月21日（月）13：00～15:00

場所：ポスター発表：農学部 202 講義室、203 講義室、205 講義室、自習室

オンライン発表：農学部 206 講義室、207 講義室

参加者数：学生 131 名（3 年生 86 名、2 年生 45 名）、教員 21 名、9 つの企業関係者 11 名



ポスター発表の様子



オンライン配信の様子

(5) 食品安全マネジメント基礎講座の実施

農学部生物生産学科では、2022年2月14日および15日に、フードサイエンスコースの3年生を対象に食品安全マネジメント基礎講座を開催しました。本講座は農林水産省が主催するもので、全国の大学から選出された2校のみ（うち1校が本学）であり、新型コロナウイルス感染症の影響により対面で実施できたのは本学のみでした。本講座は、HACCPによる衛生管理を主眼に置いた食品安全専門人材育成の観点から企画されたもので、将来的に農水省主体による国公認の研修会等実施を視野に入れたモデル事業の一環として開催されたものです。

研修会には連日とも、農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課 食品企業行動室の前島秀樹氏にお越しいただき、学生に対して本研修会の目的、意義、および我が国における食品安全行政の国際的な方向性について説明していただきました。研修会の様子は、リアルタイムで適宜農水省各関係部署にネット配信されるとともに、本事業に関する今後の検討資料として農水省内で録画、保存されました。

研修会の講師は、2日間とも SOMPO リスクマネジメント株式会社 危機管理コンサルティング部 食品安全チームリーダー 上席コンサルタントの佐川一史氏、および、危機管理・食品グループ 主任コンサルタントの山本隆氏にお越しいただき、グループワーク中心の演習形式で進行していただきました。SOMPO リスクマネジメント社は、国際標準に整合する食品安全マネジメント規格や認証スキームを構築、運営している（一財）食品安全マネジメント協会の会員であり、企業等で HACCP による衛生管理の研修を専門的に実施している機関です。今回は、本来3日間で行う研修を集約して2日間で行う実施していただくとともに、初心者である学生用にテキストや資料などを改稿してご対応いただきました。

研修会終了後、講師からは、学生から受ける質問のレベルが高いこと、学生がインターンを経験していることから、製造工場の想定がしっかりしているなどの感想をいただきました。また、学生からは、HACCP の専門家から製造現場に即した演習を受講することができて大変有意義であったという感想があった一方で、フルスペック（3日間コース）で研修を受けてみたかったとの意見も聞かれました。

以上のことから、今後も継続して実施すべき研修であると考えられました。

| | 1 日目 | 2 日目 |
|------|---|-----------------------------|
| 開催日時 | 2022年2月14日（月） 9:00～17:00 | 2022年2月15日（火） 9:00～17:00 |
| 対象者 | フードサイエンスコースの3年生 | フードサイエンスコースの3年生 |
| 参加人数 | 28名 | 27名 |
| 研修内容 | おにぎりを製造する食品工場を想定して、各班でイメージした製造工場における危害分析および重要管理点の検討 | |



基礎講座実施の様子

(6) 令和3年度 市内私立大学・短期大学連携事例発表会で報告を行いました

令和4年2月22日に、「令和3年度 市内私立大学・短期大学連携事例発表会」が上武大学高崎キャンパスで開催されました。本年度の高崎健康福祉大学からの事例発表は、農学部生物生産学科3年で作物学研究室に所属している小保形航大さんと北國響香さん（指導教員：農学部 生物生産学科 准教授 岡部繭子）が行いました。

令和3年11月から、県内の複数地域で購入した「下仁田ネギ」の形態調査を行い、その結果を取りまとめ、地域に根差した研究事例として「地域特産作物「下仁田ネギ」の草姿タイプの県内分布に関する調査」というタイトルで報告しました。



発表会会場での集合写真



事例発表会での発表の様子

10. 生物生産学科ホームページ News & Topics

*大学評議員会報告及び農学部セミナーと重複のない記事を以下に示す。

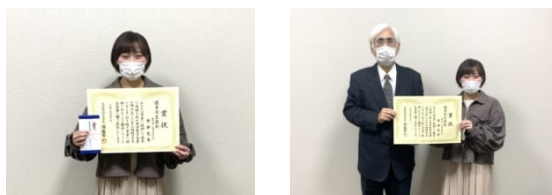
令和3年度新入生オリエンテーションを行いました (2021/4/9)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。農学部は皆さんを歓迎いたします。令和3年4月8日(木)に感染症対策を講じたうえで、新入生のオリエンテーションを行いました。新入生の自己紹介や上級生による大学生活の紹介、各学内委員の選出、履修登録の相談、上級生主催の新入生交流会により、新入生同士や先輩と親睦を深めていく様子が見受けられました。来週から講義が開始され、本格的な大学生活が始まります。大学でできた友人は一生ものになります。これからも様々な人と沢山の話をし、繋がりを作っていきましょう。



令和三年度農学部優秀学生表彰を行いました (2021/4/16)

前期授業開始日である令和3年4月14日(水)に、農学部優秀学生表彰の賞状の授与が行われました。優秀学生表彰制度は、学習に励み優秀な成績を収めた学生などを表彰する制度で、今年度の農学部からは中井光希さんが選ばれました。優秀学生の中井さんには、大政学部長より、賞状と副賞が授与されました。中井さん、おめでとうございます。



こんにゃく加工実習を実施しました (2021/6/2)

令和3年5月21日と5月28日に、作物園芸システムコースとフードサイエンスコースの3年生が、群馬県の特産作物であるこんにゃくを生芋からこんにゃくに加工する実習を行いました。この実習は、コース横断的な教育の実践として、3年生のコース別に実施されている必修科目である特別実験・実習の一部を、作物園芸システムコースとフードサイ

エンスコースでプログラムシェアをして実施しました。同じ教材・プログラムを通し、両コース共通の学びに加え、それぞれのコースの視点における専門知識を習得しました。



こども・家族ふれあい活動を実施しました（2021/6/7）

令和3年6月2日（水）11:00～12:00、こども・家族8組が参加していちご狩りを楽しみました。本活動は、本学こども・家族支援センターが実施するもので、本学付属農場内のスマートグリーンハウスで栽培されているイチゴを活用しました。



トマト加工実習を実施しました（2021/6/14）

令和3年6月4日と6月11日に、作物園芸システムコースとフードサイエンスコースのプログラムシェア実習第2弾として、農学部3年生が農場産のトマトの加工実習を行いました。

2年次の農場実習で誘引などの栽培管理を経験したトマトを、3年次の特別実験実習で食品加工することで、栽培から加工への流れをそれぞれのコースの視点から体感しました。本取り組みは、「総合科学」である農学を学ぶプログラムとして、来年度以降も継続予定です。



安中総合学園高等学校の生徒さんに学部説明を実施しました（2021/6/17）

令和3年6月16日に、群馬県立安中総合学園高等学校の生徒さんを対象として、農学部説明と見学を実施しました。参加された生徒さんは、講義室や学生実験室をはじめ、研究室、研究農場、高機能グリーンハウスなどを見学しました。

生徒さんからは、以下のような感想をいただきました。ありがとうございました。

・色々施設がしっかりしていてすごかった。・とても広かったし、大学での研究がいっぱいあったから、研究しやすいのかなと思いました。・先生たちも話しやすいし、大学の雰囲気もよくて、とても居心地が良かったです。・説明が分かりやすかった。施設が整っていてスゴイなと思いました。・研究室などが詳しく見られて良かった。



農学部保護者会延期のお知らせ（2021/6/17）

6/19（土）に開催予定の農学部保護者会ですが、諸般の事情により延期とさせていただきます。開催については改めて文書、もしくはHPにて連絡いたします。直前の連絡になりましたこととお詫びします。

橋田庸一助教が日本作物学会講演会優秀発表賞を受賞（2021/6/21）

令和3年3月29、30日にオンラインで開催された日本作物学会第251回講演会において、作物学研究室の橋田庸一助教が優秀発表賞を受賞しました。この賞は、35歳以下を対象とし、日本作物学会講演会の優秀な発表に対して贈られます。受賞対象となった研究題目は「コンニャクのグルコマンナン代謝関連遺伝子の網羅的解析」で、群馬県の特産品「こんにゃく」の主成分であるグルコマンナンの代謝に関わる遺伝子群を網羅的な遺伝子発現解析（トランスクリプトーム解析）から明らかにしたものです。なお、本発表は本学農学部と群馬県が締結した連携協定のもと、作物学研究室（廣瀬竜郎教授、岡部繭子准教授、橋田庸一助教）と群馬県農業技術センターこんにゃく特産研究センターが行った共同研究の成果です。

農場の田植えを実施しました (2021/7/2)

令和3年6月30日に、作物園芸実習Iと作物園芸特別実験・実習で、農学部2年生・3年生が農場水田において田植え実習を行いました。2年生は田植えの機械化による省力化と畑とは異なる水分条件の水田での作業性を体験し、3年生は前日の実習から苗の準備などを行い、農作業を行う上で準備や作業後の補植などの確認作業の大切さを学びました。2年生、3年生で協力し、10aの水田の田植えを無事終えることができました。秋には、収穫実習を実施予定です。



栃木農業高等学校の生徒さんに学部説明を実施しました (2021/7/9)

令和3年7月8日(木)に、栃木県立栃木農業高等学校の食品科学科の生徒さんを対象として、農学部説明、模擬講義、施設見学を実施しました。参加された生徒さんは、熱心に説明を聞き、模擬講義での実験に興味を持って取り組んでいました。



NEDO 研究事業に参画します (2021/7/16)

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)の事業「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発/産業用物質生産システム実証」の課題「エビジェネティクス代謝変換技術を用いた高集積糖生産システムの実証」に本学農学部が分担研究機関として参画いたします。詳細はNEDOのwebページ (https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101455.html)をご覧ください。

山本一太群馬県知事が農学部を視察されました（2021/7/18）

令和3年7月16日（金）に、群馬県の山本一太知事らが、農学部や薬学部、ワクチン職域接種などの取組みを視察され、その後、須藤学長らと本学の活動や私学振興についての意見交換が行われました。特に、群馬県との連携協定に基づく活動を行っている農学部では、スマート農場やドローンのデモ、農産加工処理室などを視察され、農学部の研究や群馬県との連携などについての意見交換が行われました。



夏のオープンキャンパスを開催しました（7月17日、18日）（2021/7/20）

7月17日（土）はLIVE配信、7月18日（日）は来場形式でオープンキャンパスを実施しました。

多くの生徒さんが参加しました。参加した生徒さんから以下のようなコメントをいただきました。

・楽しい模擬授業でフードサイエンスコースにも興味をもつことができました。 ・農場見学、ラボ見学が楽しかった。 ・設備がしっかりしていて、ここで実験を行ってみたいと思った。

・本日は、どうもありがとうございました。楽しかったです。 ・ラボ内の実験道具などが凄いと思いました。 ・乳酸菌の話が面白くて、興味がわきました！ ・施設がとても充実していてとてもよかったです。 ・色々な学科のコースがあり、色々な授業をしているのがすごかった。 ・施設見学（ラボ見学、農場見学）は、分かりやすく生物や機械の説明をしてもらい、大変満足している。今年度は8月21日、22日にも実施予定です。是非、ご参加ください。



辻聡助教の講演内容が YouTube で公開されました (2021/7/29)

本学農学部 of 辻聡助教が「第 16 回納豆健康学セミナー」で行った講演内容が、YouTube で公開されました。全国納豆協同組合連合会 HP 納豆健康学セミナー

<http://www.natto.or.jp/seminar/21online.html>

【納豆】「納豆健康学セミナー①」 糖尿病の予防に！？ DPP4 納豆菌

<https://www.youtube.com/watch?v=j0DLe-TQHh8>

ソーセージ製造実習を実施しました (2021/8/3)

令和 3 年 7 月 30 日に、玉村町にある公益社団法人全国食肉学校において、ソーセージ製造の実習を行いました。この実習は、フードサイエンスコース特別実験の一環として、ソーセージ製造を体験するとともにその原理を学びました。



ベニバナインゲン栽培技術向上に向けた群馬県との取組がはじまりました (2021/8/31)

群馬県、生産者と高崎健康福祉大学農学部作物学研究室が連携して実施する、ベニバナインゲンの栽培技術向上に向けた取組がはじまりました。今後は産地支援対策会議および現地研修会などの他、試験研究についても連携を進めていく予定です。

群馬県 HP 【ベニバナインゲンの栽培技術向上に向けた取組】

https://www.pref.gunma.jp/07/am28_00194.html



「やま・さと応援隊」が活動を開始しました (2021/9/18)

群馬県農政部農村整備課からの委託を受けて、本学農学部の学生が「果樹の魅力再発信一県西部果樹産地の活性化へー」をテーマに地域振興のお手伝いを始めました。「やま・さと応援隊」は、大学生等の若い力を借り、高齢化等の問題を抱える中山間地域の活力を

生み出すことを目的に、平成 24 年度から、群馬県農村整備課が県内の大学等に委託し、実施している事業です。

加藤寛准教授の研究成果がアメリカの学会誌に掲載されました (2021/9/28)

2021 年 4 月、アメリカの学会誌 *Plant Disease* に加藤寛准教授の研究成果が掲載されました。イチゴの重要病害である萎黄病は、苗で伝搬するだけでなく土壌伝搬や灌水による水の跳ね返りでも感染を拡大させるため生産者は管理に苦慮しています。そこで迅速的な検出を実現させるため、従来の PCR（電気泳動も含め約 3 時間）より迅速（最大 1 時間半）で安価な恒温装置で処理できる LAMP 法を開発しました。加藤准教授が開発した LAMP 法は、従来の PCR では検出できなかったカリフォルニア由来の菌株も検出できます。

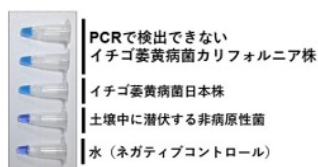


図. LAMP法によるイチゴ萎黄病菌の特異的検出

ダイコン、ホウレンソウをは種しました (2021/10/1)

令和 3 年 9 月 29 日（水）、本学生物生産学科 2 年生が作物園芸実習Ⅱで、附属農場の畑圃場には種しました。今年もダイコン 3 品種、ホウレンソウ 1 品種をは種し、12 月にはおろしにしても褐変しないダイコンや、漬物にしてもたくあん臭のしないダイコン、糖度ののった寒締めホウレンソウが出来る予定です。



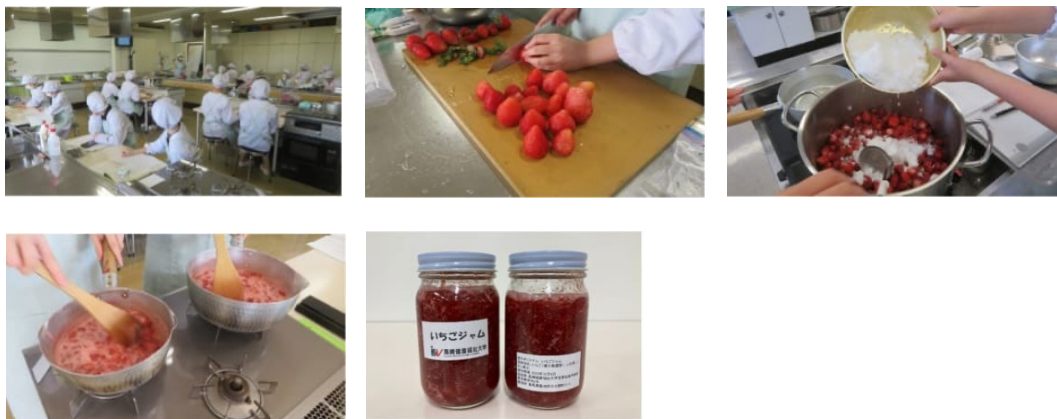
附属農場産イチゴがジャムに変身 (2021/10/6)

令和 3 年 10 月 5 日（火）、本学健康福祉学部健康栄養学科の 2 年生が、食品加工学実習でジャムづくりをしました。

使用されたイチゴは昨シーズン、健大附属農場のスマートグリーンハウスで栽培された‘やよいひめ’や‘恋みのり’が主体で、ヘタを落とし砂糖を加えて煮詰めていくと、非常に甘い

香りを醸し出していました。出来上がったジャムは瓶詰めにし、殺菌の後、冷蔵保管されました。

今回は農学部と健康福祉学部の初めてのコラボレーションで、来年度の連携を誓い合いました。



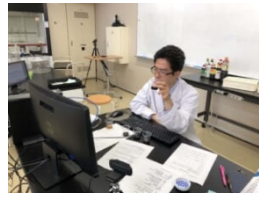
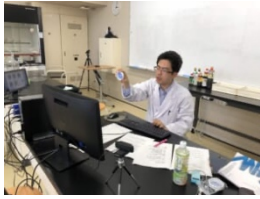
イチゴの植付けが終了しました（2021/10/6）

令和3年9月30日（木）、本学附属農場のスマートグリーンハウスにイチゴを植付けました。昨年と異なるところは、農学部が設置されて初めて研究室に配属された学生がイチゴの植付けを行った点です。早いものでは12月上旬から収穫が始まり、また、みなさまに美味しいイチゴを提供できることでしょうか。定植されたイチゴは、3年生の作物園芸特別実習で使用するとともに、次代のイチゴ品種候補として選抜していきます。



藤岡中央高等学校の生徒さんにオンラインで模擬実験を実施しました（2021/10/18）

令和3年10月14日（木）に、群馬県立藤岡中央高等学校の生徒さんを対象として、オンライン模擬講義及び実験を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大対策のためにオンラインにて、身近な発酵調味料である醤油の基礎知識についての講座と、市販醤油12品を使用した分析型官能評価および嗜好型官能評価方法を行いました。



大学院農学研究科令和4年度第1回入試を行います（2021/10/18）

かねてより認可申請しておりました高崎健康福祉大学大学院農学研究科の設置が文部科学省より認可されました。令和4年4月に博士前期課程および博士後期課程を同時に開設し、学部からの進学希望者はもちろん、研究・開発に携わる社会人の方々も積極的に迎え入れてまいります。令和4年度第1回入試の願書受付は11月8日（月）から開始します。

学科のオリジナルホームページができました（2021/10/21）

農学部生物生産学科のオリジナルホームページが完成しました。オリジナルページでは4つのコースやそれぞれの研究室、スマート農場に関して、詳しく説明しています。是非、ご覧ください。

今後、コースや研究室の情報も随時アップしていく予定です。学科オリジナルページへは本学ホームページのコース名及び研究室名をクリックしてください。また、スマート農場や農学部年報へは、専用バナーをクリックしてください。



高校専門教育研修講座が開かれました（2021/10/25）

令和3年10月22日（金）、群馬県教育委員会主催の高校専門教育研修講座が10号館ならびに附属農場で行われました。当日は県内の高校ならびに特別支援学校から農業科担当教職員10名が参加しました。初めに園芸学研究室の荒木教授が農学部の概要を説明しました。続いて作物学研究室の橋田助教が「ゲノム情報を活用した作物育種の実際」と題し、また、基礎生命科学研究室の岡本講師が「次世代シーケンサーでできること」と題し

て、最新の研究成果や解析技術を紹介しました。さらに、講演の合間には、館内の講義室や実験室ならびに附属農場のスマートグリーンハウスを紹介しました。



ダイコン、ホウレンソウを間引きました (2021/11/1)

令和3年10月27日(水)、本学生物生産学科2年生が作物園芸実習Ⅱで、ダイコンとホウレンソウの間引きをしました。これは、9月29日(水)に附属農場の畑圃場に播種していたもので、初めて出芽率を調査したのち、各播種穴1株を残して他を間引きました。次に鍬や鎌を使って畝間の除草をしたのち、不織布のべたがけをしました。学生は初めて経験する作業ばかりで、最初は戸惑っていましたが、最後には順調にできるようになりました。12月の収穫が待たれます。



アグリビジネス創出フェアに出展します (2021/11/22)

本学農学部が、農林水産省主催の技術・交流展示会である「アグリビジネス創出フェア」(東京ビックサイト青海展示棟にて11月24日-26日に開催)に出展します。なお、このフェアの入場は無料となります。詳しくはフェアのホームページ(<https://agribiz.maff.go.jp>)を御覧ください。

ダイコン、ホウレンソウを収穫しました（2021/12/2）

令和3年12月1日（水）、本学生物生産学科2年生が作物園芸実習Ⅱで、ダイコンとホウレンソウの収穫を行いました。これは、附属農場の畑圃場に9月29日（水）に播種し、10月27日（水）に間引き・べた掛けしていたものです。初めにべた掛け資材を除去し、次に鎌や剪定鋏を使って収穫しました。収穫した生産物は秤量し、一根重・一株重を算出しました。ホウレンソウについては、寒締め効果を見るために一部を圃場に残し、次回12月22日に収穫して、内容成分の違いを調べる予定です。



栃木県立栃木農業高等学校の生徒さんに模擬講義を実施しました（2021/12/3）

令和3年12月3日（金）に、栃木県立栃木農業高等学校の生徒さんを対象として、農学部説明、模擬講義（醤油の官能検査演習）、施設見学を実施しました。参加された生徒さんは、熱心に説明を聞き、模擬講義での演習に興味を持って取り組んでいました。



農学部の紹介記事が「農政と共済」に掲載されました（2021/12/9）

農学部の紹介記事「地域で輝く！高崎健大農学部」が全国農業共済協会が発行する「農政と共済」の2021年9月21日号に掲載されました。記事では、群馬県で初の農学部となる健大農学部の地域社会における重要性を中心としてまとめられていました。

群馬県立尾瀬高等学校の生徒さんに模擬講義を実施しました（2021/12/10）

令和3年12月7日（火）に、群馬県立尾瀬高等学校の生徒さんを対象として、農学部説明、模擬講義（作物の品種はどのようにつくられるか）、施設見学を実施しました。参加された生徒さんは、熱心に説明や模擬講義を受けていました。



日本農業技術検定に合格しました（2022/1/19）

令和3年12月11日（土）、2021年度第2回日本農業技術検定にわが校の3年生が初めて受験しました。その合格証あるいは合格証明書が届き、令和4年1月19日に農学部長より合格者に授与されました。受験者からは、「初めて受験することもあり、どの問題も難しかった。」という感想が聞かれました。また、「次回は1級を目指して頑張りたい。」という決意表明ももたらされました。



ベニバナインゲン産地の課題解決に向けた検討会が開催されました（2022/3/4）

群馬県 農政課、農業技術センター、普及指導課と高崎健康福祉大学農学部が連携して取り組んでいる「ベニバナインゲンの栽培技術向上」に向け、ベニバナインゲン産地の課題解決に向けた検討会が開催されました。

検討会では、生産技術の確立のための協力体制を確認した他、令和4年から群馬県と高崎健康福祉大学が協力し、試験研究を実施することになりました。

群馬県 HP【ベニバナインゲン産地の課題解決に向けた検討会の開催】

https://www.pref.gunma.jp/07/am28_00204.html

群馬県立大泉高等学校の生徒さんに模擬実験を実施しました（2022/3/23）

令和4年3月17日（木）に、群馬県立大泉高等学校の生徒さんを対象として、農学部説明、模擬実験（教科書とは違う!?実際の植物細胞を観察しよう）、施設見学を実施しました。参加された生徒さんは、熱心に説明や模擬講義を受けていました。



産業・理科教育教員派遣事業研修の報告会を実施しました（2022/3/30）

令和4年3月30日に、産業・理科教育教員派遣事業にて、農学部作物学研究室で1年間研修をしていた、群馬県立伊勢崎興陽高等学校の清水匠先生の研修報告会を実施しました。

研修中は講義や実習への参加の他、これまで伊勢崎興陽高校で栽培をされてきた「下植木ネギ」に関する栽培試験を実施し、その成果を研究会で発表をされたり、論文として投稿したりと、研究活動を行いました。



11. 来訪者リスト

| 日付 | 来訪者 | 人数 | 来訪目的 |
|-----------------------------------|-------------------------------|-----|-----------------|
| 2021/4/9,10/26, 2022/1/19, 3/1 | NTT 東日本ビジネスイノベーション 本部 | 4名 | 共同研究に向けた意見交換会 |
| 2021/5/17, 12/20 | 合同会社 環境塗装舎 一般社団法人太平洋アライアンス | 2名 | 共同研究の情報共有 |
| 2021/6/4 | 株式会社アグリス | 1名 | イチゴ高設栽培装置の説明 |
| 2021/6/17 | 群馬県農政部 | 1名 | 農作業安全講習の講師 |
| 2021/6/28 | 一般社団法人群馬県薬剤師会環境衛 生試験センター | 1名 | インターンシップについて問合せ |
| 2021/7/1, 9/24, 2022/1/25 | 群馬県こんにゃく特産研究センター | 1名 | 試験サンプルの提供 |
| 2021/7/21 | 群馬県蚕業センター 群馬県中部農業事務所 | 3名 | 意見交換会 |
| 2021/8/10 | 群馬県農林大学校 | 2名 | 農学部について問合せ |
| 2021/8/18 | 株式会社アグリクリニック研究所 | 2名 | 研究に関する問い合わせ |
| 2021/10/20 | バイオメディカルサイエンス | 2名 | 共同研究に向けた意見交換会 |
| 2021/10/22 | 群馬県総合教育センター | 10名 | 高校専門教育研修講座の実施 |
| 2021/10/25 | 農研機構基盤技術研究本部 | 2名 | 第2回農学部セミナーの講師 |
| 2021/10/26 | アイ・シー電子工業株式会社 | 2名 | 共同研究に向けた打ち合わせ |
| 2021/11/5 | ゲノム編集スタートアップ企業 | 1名 | 共同研究に向けた意見交換会 |
| 2021/11/9, 12/21 | アイ・シー電子工業株式会社 | 1名 | 共同研究に向けた打ち合わせ |
| 2021/11/11 | 群馬県農政部 | 1名 | 第1回農学部セミナーの講師 |
| 2021/11/16 | 株式会社大仙 | 1名 | 施設見学, 意見交換 |
| 2021/11/25 | 農林水産省・大学官房広報評価課 | 2名 | 農業白書説明会 |
| 2021/11/30 | NEDO | 4名 | プロジェクト進捗と施設見学 |
| 2021/12/15 | 群馬県蚕業センター | 3名 | 意見交換会 |

| 日付 | 来訪者 | 人数 | 来訪目的 |
|-----------------|----------------------|-----|-----------------------|
| 2021/12/16 | 群馬県農政部, 農業技術センター他 | 24名 | 共同研究に向けた意見交換会 |
| 2021/12/27 | 群馬県農業技術センター | 3名 | 共同研究に向けた意見交換会 |
| 2022/1/13 | 群馬県農政部 | 1名 | インターンシップガイダンス講師 |
| 2022/1/17 | 東京工業大学 (株) アクプランタ | 2名 | プロジェクト打ち合わせと農学部セミナー講演 |
| 2022/2/2 | 絹小沢 | 2名 | 協力依頼 |
| 2022/2/14, 2/15 | SOMPO リスクマネジメント株式会社 | 2名 | 食品安全リスクマネジメント基礎講座講師 |
| 2022/2/21 | 群馬県農政部 | 1名 | インターンシップ報告会 |
| 2022/3/18 | バイオメディカルサイエンス | 2名 | 共同研究に向けた意見交換会 |
| 2022/3/15 | 群馬県総合教育センター | 1名 | 高校専門教育研修講座打合せ |
| 2022/3/31 | カネカ | 1名 | 共同研究の報告 |

高崎健康福祉大学農学部年報
令和3年度（2021年度）
第3号

発行日 2022年6月
編集 農学部年報委員会
加藤 寛
清水 庸
辻 聡
谷 顕子
熊倉 慧（広報委員）
大政謙次（学部長）
